

SYLLABUS

2025 年度 秋学期

3年次

青森公立大学

経営経済学部

目 次

科目群		授業科目名	単位	区分	担当教員	ページ
教 養 科 目		美と価値	(2)	選必	木村 直弘	1
		異文化の理解	(2)	選必	下村 育世	5
		遺跡と文化財	(2)	選必	岡田 康博	8
		生命の科学	(2)	選必	※春学期開講済	—
キャリア教育科目		事業論Ⅲ	(1)	選必	今泉 清保	11
		インターンシップⅡ	(1)	選必	大森 史博	13
専 門 科 目	経 営 学 科	監査論Ⅱ	(2)	選必	紫関 正博	15
		経営倫理学	(2)	選必	藤沼 司	18
		会社法Ⅱ	(2)	選択	白石 智則	21
		経営情報論	(2)	選択	※春学期開講済	-
		生産管理論	(2)	選択	風間 信隆	24
		経営特殊講義Ⅱ	(2)	選択	山下 修平	27
		労働法	(2)	選択	三田村 浩	30
		非営利組織会計	(2)	選択	池田 享誉	33
		職業指導	(4)	選択	三上 雅也	36
		地域企業論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	生田 泰亮	40
		地域社会論Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	佐々木 てる	43
		地 域 み ら い 学 科	開発経済学	(2)	選択	大場 裕之
	金融機関論		(2)	選択	山本 俊	50
	国際金融論		(2)	選択	中條 誠一	53
	公共政策論		(2)	選択	木立 力	56
	経済特殊講義Ⅳ		(2)	選択	中井 大介	59
	会社法Ⅱ【他学科展開科目】		(2)	選択	白石 智則	21
	労働法【他学科展開科目】		(2)	選択	三田村 浩	30
	自治体政策法務論		(2)	選択	昆 忠彦	62
	経営革新論Ⅱ		(2)	選択	生田 泰亮	65
	地域と産業政策		(2)	選択	安田 公治	68
	環境ビジネス論		(2)	選択	平井 太郎	71
	地域みらい特殊講義Ⅲ		(2)	選択	竹内 紀人	74
	フィールドリサーチⅢ		(2)	選択	足達 健夫	-
					生田 泰亮	
					佐々木 てる	
					長岡 朋人	
					三浦 英樹	
					野坂 真	
		渡部 鮎美				
	安田 公治					
	会社法Ⅱ【他学科展開科目】	(2)	選択	白石 智則	21	

2020年度及び2021年度入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1200～」 「1210～」で始まる学生）

- （1）「経営革新論Ⅱ」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。
- （2）「税務会計」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「税務会計Ⅱ」の読替科目です。
- （3）「自治体政策法務論」は、2020年度・2021年度入学生カリキュラム「自治体法務論」の読替科目です。
- （4）「監査論（4単位）」の履修について

- ① 春学期開講の「監査論Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「監査論Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、評価の対象にはなりません。

2019年度以前入学生へ（学籍番号の上位4桁が「1170～」 「1180～」 「1190～」で始まる学生）

- （1）「金融経済学（4単位）」について

- ① 春学期開講の「金融経済学Ⅱ（2単位）」を履修登録すること。
- ② 秋学期開講の「金融経済学Ⅰ（2単位）」を履修登録すること。
- ③ 春学期と秋学期を総合して成績評価を行う。
- ④ 成績評価は同一年度内で完結とし、翌年度以降へは持ち越さない。

※今年度の春学期科目を履修せずに、今年度の秋学期科目を履修しても、評価の対象にはなりません。

※今年度の春学期科目を履修した場合でも、今年度の秋学期科目を履修しなかった場合は、
評価の対象にはなりません。

- （2）「経営革新論Ⅱ」は、2019年度以前入学生カリキュラム「事業創造論」の読替科目です。

- （3）「税務会計」は、2019年度以前入学生カリキュラム「税務会計Ⅱ」の読替科目です。

- （4）「自治体政策法務論」は、2019年度以前入学生は履修できません。

〔科目名〕 美と価値				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第1群)	
〔担当者〕 木村直弘 KIMURA Naohiro			〔オフィス・アワー〕 時間:授業終了後 場所:授業実施教室または担当教員へメール			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 「美と価値」という一種哲学的な命題ともとられかねない科目名ですが、本講義では、「美と価値」について考えるにあたって、より具体的なテーマである「美人論」を設定します。近年はハラスメント関係への配慮へもあって「美人は得だ」といった(価値判断的)表現は表だってされることはなくなりましたが、「美人」という表現は相変わらず世の中に氾濫しています。もちろん、「性格美人」といった言葉もあるように、「美人」の対象は容貌的なものに限りません。時代や地域によって「美人」の定義や基準が異なるのは言うまでもありませんが、この講義では、日本、東アジア、西欧それぞれにおける「美人」像の変遷の背景に光を当てることによって、ふだんわたしたちがきわめて主観的なものと捉えている「美しさ」という概念がいかに制度的なものであるかについて、改めて考えてゆきます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「美」や「芸術」といった分野は、一般的に「好み」や「趣味」が大きく関わる分野であることは言うまでもありません。それゆえ、その「好み」や「趣味」は自分が主体的に選択していると思いがちですが、実はそうした趣味が無意識のうちに選択させられていることがほとんどです。つまり、自らの嗜好、自分の「趣味」というのは、最もcritical thinking を働かせたり相対化したりしにくい分野なのですが、そうした思い込みをなくし他人の意見に流されないようにするためには、まさに critical thinking(メタ認知、鳥瞰的思考、複眼的思考)が不可欠です。まさにそうした発想を養うにあたって、最も critical thinking 的視点から遠いと考えられる「好み」「趣味」という分野はもっともふさわしいものです。そして、critical thinking ができるかどうかは、自らがいろいろなひきだし(視点)をもっているかどうかにかかっています。そこに、この講義がより多様な視点を学ぶことができる一般教養教育科目中に位置づけられている意味があると言えるでしょう。							
〔科目の到達目標〕 1. 日常的によく使われている「美」という概念について、自分の言葉で説明出来るようになる。 2. 各時代、各地域での「美人」像の変遷を知ることによって、メタ認知的視点を獲得する。 3. 最終的に、日常生活のあらゆる面でメタ認知的な発想ができるようになる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 毎回の講義中に課されるリアクションペーパーに要望等を記入してもらい、可能な限りそれを受講者と共有し、授業に反映する。							
〔教科書〕 使用しない							
〔指定図書〕 特になし							
〔参考書〕 特になし							

〔前提科目〕	
特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
・毎授業回で課される小課題 60 点+学期末レポート課題 40 点=計 100 点の総合評価。 ・出席回数が 10 回に満たない者には単位を与えない。 ・平常点は毎回出される小課題によるが、正解のない課題であるため、回答への取り組み姿勢も含めて評価する(課題を提出してもその取り組み姿勢や内容が悪ければ 0 点の場合もある)。 ・A : 80 点以上、B : 80 点未満~70 点以上、C : 70 点未満~60 点以上、D : 60 点未満~50 点以上、F : 50 点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
基本的に「美」や「芸術」といった分野に「正解」はありません。よって、毎回リアクションペーパーで課される小課題も、何か「正解」的な回答をするという意識を棄て、自らの意見について、(読む人に伝わるように)メタ認知を働かせて自由に書くよう要望します。	
〔実務経歴〕	
なし (担当教員は、他の高等教育機関で美学芸術学関係の講義を長年行ってきました。)	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス:「美」とはなにか 内 容: そもそも「美」とはどういう概念なのかについて概説し、それを考える学問としての「美学」や「美人」論を紹介します。 教科書・指定図書:なし。適宜資料を配付します。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 快としての美と価値としての美 内 容: 西洋的価値観としての「真・善・美」などを例に、「美的判断」について学びます。 教科書・指定図書:なし。適宜資料を配付します。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): ヌードは美しいか? 内 容: なぜ(日本では)公共の場に裸体像が置かれているのかから説き起こし、裸体美がどのように価値づけられてきたのかについて学びます。 教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 日本における「美人」観の変遷 内 容: 西洋同様、日本にも古くから「美人」という考え方がありました。日本古代から近代までの「美人」観の変遷を具体的な作品を紹介しつつ辿り、それが現代におけるわたしたちの「美人」観にどの程度影響を与えているのかについて学びます。 教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 日本における「美男」観の変遷 内 容: 「美人」はたいてい女性に対して使われるイメージですが、「美男」という言葉もあるように、男性も美的価値づけの対象になってきました。この回では、日本における「美男」観の変遷を辿ることによって、現代における西洋文化の影響の大きさについて改めて学びます。 教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 中国における「美人」「美男」観の変遷 内 容: 日本人の「美人」についてのイメージは、当然のことながら中国文化からの影響を大きく受けています。日本文化のルーツの一つである中国における「美人」観の歴史的変遷について学びます。 教科書・指定図書: なし。適宜資料を配付します。

第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：なぜ「整形」するのか～韓国を例に～ 内 容：日本と同様韓国も中国文化から大きな影響を受けていますが、特に現代でも儒教文化と戦争の影響は色濃く残っています。そうした影響と韓国で盛んとなった「整形」文化との関係について学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか)：西洋における美の価値づけと「美人」観(古代ギリシャ・ローマ) 内 容：裸体美の回で紹介した「プロポーション」ほか、古代ギリシャは現代まで西洋文化の源の一つとなっています。なぜ古代ギリシャが西洋文化のルーツなのか、それに「美」がどのように価値づけられていたのかについて学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか)：西洋における美の価値づけと「美人」観(中世・ルネサンス期) 内 容：「キリスト教の時代」とも言える西洋中世と、その反動としての「人文主義の時代」である西洋ルネサンスの時代における「美人」像の変化をふまえ、それぞれの時代の「美」の価値づけについて具体的な芸術作品を例に学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)：西洋における 美の価値づけと「美人」観(17～18 世紀) 内 容：前回に続き、西洋 17 世紀のバロック時代と「理性の世紀」と言われた 18 世紀における「美」の価値づけの変化と、その変化の背景について、具体的な芸術作品を例に学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか)：西洋における美の価値づけと「美人」観(19 世紀) 内 容：西洋 19 世紀は「ロマン主義」の時代と言われます。古典的なものが優勢だった 18 世紀の反動としてのロマン主義は、現代における芸術観に直接影響を与えています。市民階級が力を持ち始めたこの時代の美人像がどのように表現されたかを通じて、この時代における美の価値づけについて学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか)：ファッションの変革と「美人」観の変遷～20 世紀における身体のパリティクス 内 容：20 世紀は一言で言えば多様性の時代であり、「美」のあり方も多様になります。ここでは 19 世紀からの「ファッション」の世界での変化を当時の身体観の変化と重ね映し考察することで、美を価値づけることの多様性を学びます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)：「かわいい」は「美しい」と「グロテスク」の狭間？ 内 容：現代では、もはや「美しい」という形容詞は流行らず、より包括的な概念としての「かわいい」に取って代わられているように見えます。この回では、「美しい」と似たカテゴリーに入る形容の仕方を比較検討することによって、「美」を価値づけるということはどういうことかについて間接的な視角から考えます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)：「ミロのヴィーナス」や「モナ・リザ」は美しいか？ 内 容：これまでの授業内容をふまえ、「ミロのヴィーナス」や「モナ・リザ」といった有名な芸術作品は本当に「美しい」のか、必ずしも美しくないのであれば、それらはなぜ価値ある美術品とされているのか、その理由を改めて考えます。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。

第 15 回	テーマ(何を学ぶか)：まとめと確認 内 容：各回で学んだことを改めて振り返り、全体での学びを確認します。最終回なので、アンケートも行います。 教科書・指定図書：なし。適宜資料を配付します。
試 験	筆記試験は行わず、学期末レポートを課します。

〔科目名〕 異文化の理解				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目 (第2群)	
〔担当者〕 下村 育世		〔オフィス・アワー〕 時間:火2(それ以外もメールでアポとり可能です) 場所:研究室			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 グローバル化が進むなかで、日本国内への外国人の旅行者や居住者は年々増加し、留学や旅行で外国を訪れなくても、国内において諸外国との文化的な違いを感じる場面は日常的に増えている。青森県もちろん例外ではなく、昨2024 年、県内の外国人労働者数と外国人労働者を雇用する事業所数は過去最高を記録した。とりわけ文化の重要な一要素である宗教にかかわる文化的差異を、宗教的理由から特定の食べ物を食べない人々やこれまで見かけなかった外来宗教の施設を目にするなかで、意識する機会は今後も増えるだろう。宗教文化への無理解や誤解は深刻な問題をひきおこすおそれがあるため、適切な知識を学ぶ必要性は高まっていると言える。 当たり前だと捉えている自文化は、特定の文化的条件のもとでのみ通用する「メガネ」を通じて見えている世界かもしれない。異文化をまなざし接触する際には、その「メガネ」に「色」や「くもり」がある可能性への自覚や自省が求められる。使い慣れた「メガネ」を疑い、異なる「メガネ」の存在を知り、両者を調整することは、日本の文化のありようを世界の人々に理解してもらい、諸外国の文化を理解するにあたって必須であり、多文化共生が進行する社会で「他者」と共存していく考え方や視点の基本となるものである。本講義では、さまざまな「宗教」を取りあげながら、自文化と異文化についての知識と理解を深めていきたい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・なぜ、学ぶ必要があるか:宗教は人々の価値観、行動、文化の根幹に関わっている。宗教を知ることは、他者の行動の背景を理解する手がかりになると同時に、自分の価値観を相対化し深める。自己および他者をより深く理解し、異文化理解のための文化的寛容を身につけるにあたり必要である。 ・学んだことが、何に結びつくか:異なる宗教的背景を持つ人々が暮らす現代において、相互理解は共生の基盤となる。多文化共生社会の実現へとつながる。							
〔科目の到達目標〕 本講義の到達目標は本学の教育目標に照らして、受講生が以下の3点を身につけることとする。 ・世界の主要三大宗教であるキリスト教、イスラーム、仏教を中心とした宗教の基礎的な知識を得る。 ・それらの宗教の歴史・文化や習慣を理解し、違いを説明できる。 ・上記を踏まえた上で、自己の宗教観と日本の宗教について説明できる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 昨年度は講義内でイスラームグッズに触れる経験をしてもらった。教員にとっても初めての試みであったが、思ったより好評だったようなので、今年も計画する予定である。							
〔教科書〕 適宜授業ごとにレジュメや資料を配布。							
〔指定図書〕							

〔参考書〕 櫻井義秀・平藤喜久子編『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015 年。その他、授業のなかで紹介する。	
〔前提科目〕 語学科目は、異文化・自文化理解に役立つでしょう。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・平常点 60 点、期末レポート 40 点を総合して評価する。 ・平常点は、授業内で課す小クイズやリアクションペーパー、また授業外での調査を要するミニレポートの作成、の提出と理解・達成度を総合的に判断して評価する。 ・期末レポート課題と評価方法については、授業時に説明する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・日本では「無宗教」と称する人が多い。どこか「宗教」は他人事のように感じ、これまで宗教について学ぼう、理解しようと考えたことはなかったかもしれない。しかし日本は、宗教と無縁であったわけではなく、さまざまな宗教を外国から受け入れ、独自の方法で変容させながら日本文化の一面を形成し生活のなかに溶け込ませている。日本人にとって「宗教」とは何を意味するのか、授業を通じて考えていきたい。 ・授業の進行上、シラバスの内容やスケジュールを変更することがある。	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：ガイダンス 内 容：①授業全体の構成、評価方法とその内容、授業の注意点の説明。②異文化理解の基礎としての「宗教」。日本の公教育における「宗教」の扱い。文化によって異なる「宗教」の捉え方。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：「宗教」へのアプローチ 内 容：「宗教」を対象とする様々な学問。他者理解としての宗教学の成立。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況1：自文化を知る。日本人は無宗教か？ 内 容：世論調査から宗教を読み解く。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況 2：自文化を知る。マスコミでよく使われる数値のからくり。 内 容：コンビニよりも多い日本の宗教法人とは。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：日本の宗教状況 3：自文化を知る。 内 容：政府の統計資料から宗教を読み解く。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：世界の諸宗教文化(ユダヤ教) 内 容：世界の宗教分布。唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教。ユダヤ教と食文化、服装、通過儀礼。 教科書・指定図書：配布するレジュメにリストを提示

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(キリスト教 1) 内 容:ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(キリスト教 2) 内 容:西洋と日本の接触。キリスト教伝来と禁教。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム 1) 内 容:イスラームと食文化、お酒、女性。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム 2) 内 容:イスラーム文化に触れてみる。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(イスラーム 3)ラマダンやハッジは毎年日取りが異なる？ 内 容:イスラームの暦のメカニズム。唯一神信仰における死と生についての考え方の違いと共通点。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教 1) 内 容:インドにおける新宗教運動としての仏教。仏教の大きな二つの流れ。アジアにおける仏教の展開と変容。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教 2):地獄ってどこにある？ 内 容:仏教の世界(須弥山と地獄・極楽)とは。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):世界の諸宗教文化(仏教 3):肉食し妻帯する僧侶は日本だけ？ 内 容:日本における仏教受容。神仏習合と葬祭仏教。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):総括 内 容: まとめ。 教科書・指定図書 :配布するレジュメにリストを提示
試 験	平常点と期末レポートで成績評価するため、期末試験は実施しない。

〔科目名〕 遺跡と文化財				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 教養科目(第2群)	
〔担当者〕 岡 田 康 博		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 ・日本に所在する多種多様な文化財、文化遺産を地域資源として捉え、その保存活用について基本的な事項を学び、学生自ら具体的な方法や内容を検討し、計画案を作成する。 ・そのためのケーススタディーとして縄文遺跡を取りあげ、最新の研究成果に基づく縄文社会の実像や当時の生活や文化などについて知り、その価値や魅力、地域資源としての可能性を考え、地域づくりや活性化、人材育成に活かす方策などを学ぶ。 ・最近注目されている世界遺産についてもその趣旨や制度を理解し、効果や課題などについて学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・文化財や文化遺産の保護の仕組みや課題について学び、文化財保護や活用の基本的な考え方や思想を整理、確認するとともに地方自治体等が行う文化財保護行政の本来のあり方や課題を具体的に知る。 ・地域の遺跡や文化財をどのように保護し、さらに多様な活用方法を検討することにより、自分自身が街づくりや地域づくりのプランナーとして、あるいは地域住民として将来活動、参加する際のきっかけとなる。 ・世界遺産について、理念、登録までのプロセス、課題等を知ることにより、より身近な地域の話題として、受け止めることができる。							
〔科目の到達目標〕 ・文化財や文化遺産保護の仕組み、活用を中心とした文化財保護行政の現状と課題について理解する。 ・ケーススタディーとして、縄文文化に関する最新の研究成果をもとに、三内丸山遺跡をはじめとする縄文遺跡の特徴について学ぶ。 ・世界遺産について、その理念や登録までプロセス、方法、課題等を知り、さらに登録後の状況を知る。 ・遺跡や文化財の特徴を活かした多様な活用についての計画案を作成、提案することを目標とする。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・三内丸山遺跡の現地見学を含め、動画やスライドなどの映像資料を多く使用し、より多くの事例を紹介し、具体的なイメージを構築できるような講義とする。 ・毎回、講義内容についての詳細な資料を配付する。							
〔教科書〕							
〔指定図書〕							
〔参考書〕 『世界遺産になった！縄文遺跡』 岡田 康博 編 同成社 2021							
〔前提科目〕							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・遺跡観察レポート、課題レポートにより成績評価を行う。毎回、出席の確認を行い、出席が少ない場合には評価の対象としない。 遺跡観察レポート 30点 課題レポート 70点 A:100～80、B: 80～70、C: 70～60、D: 60～50、F: 50～0	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 文化庁や長年にわたる文化財保護行政の実務経験をもとに、遺跡や文化財の保存活用に関する最新情報を提供し、文化財保護法や文化財保護の仕組みについても具体例を用いながらの説明を心懸けている。また、縄文遺跡研究の最新の成果を紹介するとともに、遺跡の保存・活用の成功例として三内丸山遺跡の調査成果やこれまでの経過、行政的な取り組み等についての体験談を伝え、地域の遺跡や文化財をどのように活用するのか、加えて地域づくりや活性化、人材育成への活かし方について講義全体を通じて活用方法を考えて欲しい。さらに最近注目されている世界遺産についても効果や課題についても取り上げる。	
〔実務経歴〕 自治体	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:文化財の種類や定義、保護の仕組みや文化財保護法について学ぶ。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:遺跡について種類や保護の仕組み、方法について学ぶ。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:三内丸山遺跡の現地見学を行い、遺跡公園の現状を学ぶ。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:三内丸山遺跡内で行われている文化財の保存や活用方法について学ぶ。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:見学内容を整理し、遺跡見学レポートを作成、提出する。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:遺跡の保存の経緯を知り、公開・活用の効果等について学ぶ。 教科書・指定図書

第7回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:活用するにあたって縄文時代の環境や生業、生活などを学ぶ。 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:活用の観点から縄文時代の衣食住や精神世界について考える。 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:遺跡保存の活用と効果について学ぶ。 教科書・指定図書
第10回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:世界遺産の理念、登録の仕組み等を学ぶ。 教科書・指定図書
第11回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:世界遺産の効果、現状を学ぶ。 教科書・指定図書
第12回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:観光の観点から世界遺産の課題について学ぶ。 教科書・指定図書
第13回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:活用の考え方や方法、過程について学ぶ。 教科書・指定図書
第14回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:遺跡や文化財の保存、活用について国内外の事例について学ぶ。 教科書・指定図書
第15回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:講義内容を整理し、レポート作成にあたってのポイント、留意点を学ぶ。 教科書・指定図書
試 験	課題レポート提出

〔科目名〕 事業論Ⅲ				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 今泉 清保		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 ・自分のキャリアをどう作っていくか、自分の将来をイメージする ・ニュースがどうやって出来るかを知り、情報をどう集めるか、またメディア・リテラシーについて考える ・インタビューをする側、される側をそれぞれ体験し、インタビュー記事を書く ・自分が見たい、見てもらいたい番組を、内容、ターゲット層、放送時間帯などを考えて企画書を作る ・イベントを企画し、プレスリリースを作成して「魅力ある発信」について考える ・地域について取り上げたニュース企画を視聴して、地域の魅力や課題について考える ・さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴して、自分のキャリアデザインを考える							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現役アナウンサーによる、放送局の仕事をベースにして自分を表現し発信することについて考える講義です。 SNSで個人が自由に情報発信できるようになった現在、正しくわかりやすい情報を発信する能力は、今後どんな職種に就くとしても求められます。 また、自分の個性や魅力をわかりやすく伝えることは、今後の就職活動において、エントリーシートの作成や面接の際に必要となります。 講義を通して、自分の中の引き出しに何があり、何を取り出してどう伝えたら自分のことを相手に理解してもらえるか考え、キャリアデザインに役立てて欲しいです。							
〔科目の到達目標〕 ・自分のいいところ、経験したことなどを的確に人に伝えられるようになる ・自分の言葉で文章が書けるようになる							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○				
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業評価が全体的に好評だったため、内容に大きな変更はありません。「テレビ」に加えて「ユーチューブ」「SNS」などの内容も加えています。							
〔教科書〕 講師作成資料							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 なし							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 各回の講義内容やテーマにそって、ミニレポートを講義中に書き、講義終了時に提出します。 提出された7回分のレポートをそれぞれ採点し、合計得点でグレードが決まります。							

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 自分で考えた発想、相手から聞いた話、見た番組の感想などを、自分の言葉で「読み手に伝わるように」書く力を、7回のレポート提出でつけていきます。筆記用具は必ず持参してください。	
【実務経歴】 福岡放送アナウンサーを経て、東京でフリーアナウンサーとして「めざましテレビ」「アッコにおまかせ」「はなまるマーケット」など。2011年青森テレビ入社。「ATV ニュースワイド」キャスターなど。現在は「わっち!!」木曜中継担当など。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：自分のキャリアを考える 内 容：講師や本学卒業生のキャリアから、これからどんなキャリアを形成するか考える 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：ニュースについて考える 内 容：テレビニュースができるまで 取材の基本 メディアリテラシー 自分の人生のニュースとは 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：インタビューとは 内 容：インタビューの基本 インタビューをして記事を書いてみる 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：番組の企画とは 内 容：人に「見せたい」番組を考え企画書を作る テレビとユーチューブの違い 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：魅力あるイベントとは 内 容：イベントを企画しマスコミ向けに「取材してみたい」プレスリリースを作成する 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか)：地域について考える 内 容：地域のことを取り上げたニュース企画を視聴し、地域の暮らしや問題について考える 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか)：自分の魅力はなにか、目指すキャリアはなにかを考える 内 容：さまざまなキャリアを持つ人を取り上げたニュース企画を視聴し、目指すキャリアを考える 教科書・指定図書
試 験	なし 毎回提出するレポートにて評価

〔科目名〕 インターンシップⅡ				〔単位数〕 1 単位		〔科目区分〕 キャリア教育科目	
〔担当者〕 大森 史博 OHMORI Fumihiro			〔オフィス・アワー〕 時間:別途提示する 場所:613 研究室			〔授業の方法〕 実習・演習	
〔科目の概要〕 この科目は、3年次以上の学生を対象として、企業や団体等が実施するインターンシップ(30 時間以上の実習)に参加した者に単位を認定するものです。「インターンシップを機会とした企業研究や自己分析を実践的に就職活動に生かしていくこと」、「授業で学んできた知見を就職活動や今後のキャリア形成に生かしていくこと」、について深く考えることを目的としています。受講生の皆さんは、「インターン先で経験したいことは何か?」、「インターンの経験のなかで何を学んだか?」、「自分自身の仕事や業界の適性は?」、「今後の大学生活で修得すべきものは何か?」等について、事前レポート、事後レポートを作成することから、自らの経験を振り返り、キャリア形成の展望を広げてもらうことを企図しています。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 この科目は、これまで学んできた授業科目の知識を基礎としながらも、仕事や社会という広く開かれた自己と他者の関係について、再考する機会となるものです。専門分野で学んできた経営、経済の事柄をはじめ、学生生活をとおして培ってきた諸々の知識をもとに、インターンシップに臨む計画を入念に設計し、就業先での経験を振り返ります。これまで学び、身につけてきた知識について再確認することをおこなう一方、我々を取り巻く環境の動向、自身のキャリア形成について今後どうすべきか、を熟考してもらいます。							
〔科目の到達目標〕 ・インターンシップ先で何を学んだのか、その内容は何かを説明できる。 ・自分自身の特徴を理解し、適性のある業界や職種を明示することができる。 ・これからの学生生活の中で修得すべきもの、これからの課題について言表することができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 とくになし。							
〔教科書〕 使用しない。							
〔指定図書〕 とくに指定しない。							
〔参考書〕 『働くことの哲学』ラース・スヴェンセン著、小須田健訳、紀伊国屋書店、2020 年 『誰のための仕事 労働 VS 余暇を超えて』鷲田清一著、講談社学術文庫、2021 年							
〔前提科目〕 該当なし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 提出の事前レポート、事後レポート、および勤務評価書の内容をもとに、総合的に判断します。 この科目で修得する単位は、卒業要件に算入されますが、GPA には算入されない形での認定となります。							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 インターンシップの貴重な経験を振り返り、熟考することで、その経験の意味を再確認し、実践的に就職活動に生かしていくことを期待しています。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):事前レポート提出 内 容: 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):実習 内 容: 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):事後レポート提出 内 容: 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容: 教科書・指定図書
試 験	実施しない。

【科目名】 監査論Ⅱ				【単位数】 2 単位		【科目区分】 専門科目 展開科目	
【担当者】 紫関 正博 Shiseki Masahiro		【オフィス・アワー】 時間:授業の開始時に提示 場所:研究室(512)				【授業の方法】 講義	
【科目の概要】 監査(または財務諸表監査)制度は、会計制度を通じて企業が作成した会計文書(財務諸表)が適正であるかをチェックする社会制度の一構成要素である。こうした役割を監査が担っているにもかかわらず、なぜ粉飾決算は繰り返されるのかを想起しておく必要がある。その原因の1つは、現代の会計がフェア・バリュー(Fair Value)を導入し、会計において将来という概念が採用されることによって、会計文書(財務諸表)上で将来に関わる会計実務(会計の「用語」と「数値」(金額))が含まれていることにあるように思われる。確かに、監査を実施することで、企業が会計法規や会計基準などに基づいて適正な財務諸表を作成したかをチェックできるが、将来に関する会計事象(会計の「用語」と「数値」(金額))に対してはどのように信頼性を付与すればよいであろうか。現在、こうした問題が監査の領域で生じている。 「監査論Ⅱ」では、現代の監査における課題を念頭に置きながら、財務諸表監査を実務的側面から学ぶ。本講義では、監査実務を主なテーマとして、公認会計士(監査法人)による監査契約の締結から監査意見の形成までの監査のプロセスを考察する。また、現代の監査の手法として用いられている監査リスク・アプローチを取り上げ、監査とリスクが如何なる関係にあるのかという観点から、公認会計士(監査法人)によって行われる現代の監査実務を学ぶ。講義では、内部統制と監査、監査上の主要な検討事項(KAM)、監査報告書の役割の他、監査の品質を維持するための近年の監査制度の改革も学ぶ。また、関連する会計不正の事例も取り上げる予定である。							
【「授業科目群」・他の科目との関連付け】・【なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか】 ・他の科目との関連付け 監査の対象は財務情報であることから、「監査論Ⅱ」は、監査概念や監査制度などを取り上げる「監査論Ⅰ」の他にも、他の会計関連科目(会計学基礎論, 財務会計論Ⅰ・Ⅱ, 財務分析Ⅰ・Ⅱ, 財務管理など)で学習した会計の理論や実務を再確認し、現代の会計に対する理解をさらに深めていくことにもつながります。 ・学ぶ必要性と学ぶことの意義 会計は、ビジネスの言語として、ビジネスパーソンに必須の知識となっています。財務諸表監査を理解することは、会計文書(財務諸表)を社会に公表する意義を再認識する上で有益です。最近では、財務諸表監査の他にも、企業などの組織における内部監査の導入と上場企業などに対する内部統制の制度化により、ビジネスの現場に監査が現われる場面も増えています。近年は、監査法人で働く会計専門職業人のみならず、会計文書(財務諸表)を作成する側の企業に関係する人々も、監査の役割を理解する必要性が高まっています。							
【科目の到達目標】 (中間目標) 公認会計士(監査法人)の視点から、財務諸表監査の手法を学び、監査のプロセスを理解する。 (最終目標) 財務諸表監査の手法を習得し、現代の監査における課題を考え、現代会計の下での監査の意義を理解する。							
【ディプロマ・ポリシー(DP)との関係】							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕			
マイクの調整や声の出し方により、しっかりと音声を伝え、聞き取りやすくするように心掛けます。また、レジュメや教科書の該当箇所が分からなくならないように配慮します。授業内容の理解をさらに深めるために、予習と復習を行い、積極的に授業に参加して下さい。			
〔教科書〕			
・伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏 著『ベーシック監査論(九訂版)』, 同文舘出版, 2022 年。			
〔指定図書〕			
・山浦久司 著『監査論テキスト[第 9 版]』, 中央経済社, 2024 年。			
〔参考書〕			
・長吉眞一・伊藤龍峰・北山久恵・井上善弘・岸牧人・異島須賀子 著『監査論入門(第 6 版)』, 中央経済社, 2024 年。			
・蟹江 章・井上善弘・栗濱竜一郎 編著『スタンダードテキスト監査論(第 7 版)』, 中央経済社, 2024 年。			
〔前提科目〕			
前提科目はなし。「監査論 I」, 「会計学基礎論」, 「財務会計論 I・II」(できれば, 他の会計関連科目も)を履修していることが望ましい。			
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)			
・授業の参加度を確認するため, 3～5 回程度, 小課題を実施する。また, 期末試験の他に, 小テストを行う。 <u>小テストの実施日は, 授業内および掲示で伝達するので, 注意すること。</u>			
・評価は, 小課題(10%), 小テスト(30%), 期末試験(60%)による。なお, 直近のビジネス会計検定試験の成果(可否)を, 若干成績に加味して評価します。			
(評価)		A: 80%以上	GPA 4.00
		B: 70%～80%未満	3.00
		C: 60%～70%未満	2.00
		D: 50%～60%未満	1.00
		F: 50%未満	0.00
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕			
・初回の授業の際に, <u>評価方法の詳細を説明するので, 必ず出席すること。</u>			
・受講生の学習理解度, 授業の状況などにより, 授業スケジュールに変更が生じる場合もあり得ます。			
・「監査論 II」の講義では, 受講者自らが「公認会計士」の職務を担当しているかのような意識を持ち, 現代の会計と監査がどのような関係にあるのかを意識的に考えてほしい。			
・授業では, 監査固有の専門用語が登場するので, 覚えることも多い。理解したことを定着させるためにも, 予習と復習をして授業に臨むこと。予習の際には, 教科書, 講義レジュメを読み, 授業に出席すること。			
〔実務経歴〕			
該当なし			
授 業 スケ ジ ュ ー ル			
第 1 回	テーマ(何を学ぶか):ガイダンスと監査制度 内 容:ガイダンス, 会社法監査と金融商品取引法監査を学ぶ 教科書 第2章, 講義レジュメ		
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):公認会計士と監査法人 内 容:公認会計士制度と監査法人制度を学ぶ 教科書 第3章, 講義レジュメ		

第3回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス① 内 容:監査契約, 監査計画, 経営者の主張, 監査要点を学ぶ 教科書 第4章, 講義レジュメ
第4回	テーマ(何を学ぶか):監査意見形成のプロセス② 内 容:監査証拠, 監査手続(監査技術)を学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第5回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略① 内 容:監査リスク・アプローチの構成要素と監査リスクを学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第6回	テーマ(何を学ぶか):監査リスク・アプローチと監査戦略② 内 容:監査上の重要性, 重要な虚偽表示のリスクを学ぶ 教科書 第5章, 講義レジュメ
第7回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了① 内 容:監査戦略と監査計画を学ぶ 教科書 第6章, 講義レジュメ
第8回	テーマ(何を学ぶか):リスク評価, リスク対応および監査の完了② 内 容:リスク評価とリスク対応を学ぶ 教科書 第6章, 講義レジュメ
第9回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能① 内 容:監査報告書の構造を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第10回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能② 内 容:監査意見の種類, 継続企業の前提の監査を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第11回	テーマ(何を学ぶか):監査報告書と情報提供機能③ 内 容:監査上の主要な検討事項(KAM)を学ぶ 教科書 第7章, 講義レジュメ
第12回	テーマ(何を学ぶか):不正の防止と情報開示 内 容:内部監査と内部統制監査を学ぶ 教科書 第8章, 講義レジュメ
第13回	テーマ(何を学ぶか):監査の品質 内 容:監査(事務所)における品質管理, 会計エンフォースメント 教科書 講義レジュメ
第14回	テーマ(何を学ぶか):会計不正の事例 内 容:近年の会計不正事件のケーススタディ 教科書 講義レジュメ
第15回	テーマ(何を学ぶか):総復習 内 容:講義内容の総括 教科書 講義レジュメ
試験	

〔科目名〕 経営倫理学				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目	
〔担当者〕 藤沼 司		〔オフィス・アワー〕 時間: オフィス・アワーは授業の開始時に提示 場所: 603研究室				〔授業の方法〕 講 義	
〔科目の概要〕 20 世紀以降の現代社会が「組織社会」「マネジメントの世紀」と呼ばれるようになって久しい。その組織社会たる現代社会を支える企業や行政機関、その他の組織体が引き起こす事件・事故は、私たちが生きる現代社会を根底から揺るがすことにもなりかねません。 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体を取り巻く多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）との関わりを問い、またそのことを踏まえてどのように組織体をマネジメントするかを問う学問であると言えます。その意味で本講義では、みなさんとともに「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問いたいと思います。そのことが現代社会や組織を、ひいてはくいま・ここに生きる私たちのあり方・生き方を、問うことにもなります。 可能な限り授業スケジュール通りに進めるよう努力しますが、受講生の状況によっては変更が生じうることを、あらかじめ理解しておいてください。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 組織体は、様々な環境との相互作用の中で活動しています。経営倫理学は、組織体と多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）との関わりを問う学問であると言えます。その意味で言えば、教養科目群を学ぶことを通じて、多様な環境（人間環境、社会環境、自然環境）についての理解を深めることが期待されます。 また基本的に、「多様な環境の中での組織体のマネジメントのあり方」を問うという意味で、マネジメント論や組織論、経営戦略論、環境経営論などと密接な関連を有しています。							
〔科目の到達目標〕 本講義の到達目標は、みなさん自身が「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問い、意思決定し、実践するための土台づくりです。そのため、 <u>さまざまな観点からの問い方を学び、その特徴を理解することを重視したい</u> と思います。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 「授業評価」（授業アンケート）に関して、「問題点は特になし」であったり、自由記載回答記入者がいないので、特に述べることはありません。引き続き、わかりやすい授業となるよう改善を試みます。わかりやすく、受講生が議論に参加しやすくなるように、努めます。							
〔教科書〕 特になし							
〔指定図書〕 必要なときに提示							
〔参考書〕 岩田 浩『経営倫理とプラグマティズム—ジョン・デューイの思想に依拠した序説的考察—』文眞堂。 遠田雄志『組織を変える“常識”—適応モデルで診断する—』中公新書。 小笠原英司・藤沼司編著『原子力発電企業と事業経営—東日本大震災と福島原発事故から学ぶ—』文眞堂。 奥村 宏『会社はなぜ事件を繰り返すのか—検証・戦後会社史—』NTT出版。							

奥山俊宏・村山治・横山蔵利『ルポ 内部告発—なぜ組織は間違えるのか—』朝日新書。 釘原直樹『集団はなぜ残酷にまた慈悲深くなるのか—理不尽な服従と自発的人助けの心理学—』中公新書。 高浦康有・藤野真也編著『理論とケースで学ぶ企業倫理入門』白桃書房。 武田晴人『事件から読みとく日本企業史』有斐閣。 谷口照三『組織倫理論の可能性—経営の解釈・実践枠組み探求への新たな地平—』大学教育出版。 G.テッド『サイロ・エフェクト—高度専門化社会の罠—』文藝春秋。 中原 翔『組織不正はいつも正しい—ソーシャル・アバランチを防ぐには—』光文社新書。 樋口晴彦『組織行動の「まずい!!」学—どうして失敗が繰り返されるのか—』祥伝社新書。 樋口晴彦『「まずい!!」学—組織はこうしてウソをつく—』祥伝社新書。 間嶋 崇『組織不祥事—組織文化論による分析—』文眞堂。 宮坂純一『道徳的主体としての現代企業—なぜに、企業不祥事が繰り返されるのか—』晃洋書房。 村田晴夫『文明と経営』文眞堂。 S.B.ローゼンソール＝R.A.ブックホルツ『経営倫理学の新構想』文眞堂。 K・ワイク＝K・サトリフ『想定外のマネジメント—高信頼性組織とは何か—（第3版）』文眞堂。	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価方法は以下の諸点を考慮し、総合的に判断します。グレードポイントは学生便覧通り。 ・ 期末試験 ・ 講義内レポート ・ 講義内発言点 ・ グループ・ワーク	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本講義では、「組織体と多様な環境との関係のあり方」を問うていきたいと思います。 その手がかりとして本講義では、「組織体はなぜ不祥事・事件・事故を起こすのか」という問いに対する考察を重視したいと思います。そのために、受講生のみなさんには、「組織体の不祥事・事件・事故」をグループ単位で具体的に調べてもらい、講義内で発表してもらいグループ・ワークを考えています。そのことを通じて、組織に対するおよび組織における人間行動に対する理解を深めることを目指したいと思います。こうした問題に関心のある学生の積極的な「参加」を希望します。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス:経営倫理学の歴史的背景 内 容: 経営倫理学を生み出した背景 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 応用倫理学としての経営倫理学 ① 内 容: 徳理論・義務論 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 応用倫理学としての経営倫理学 ② 内 容: 功利主義・正義論 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布

第4回	テーマ(何を学ぶか):応用倫理学としての経営倫理学 ③ 内 容:共同体主義・行動倫理 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第5回	テーマ(何を学ぶか):「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 ① 内 容:これまでの振り返り／事例紹介 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第6回	テーマ(何を学ぶか):「応用倫理学としての経営倫理学」の再考 ② 内 容:道徳的多元主義の検討 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第7回	テーマ(何を学ぶか):道徳的制度としての組織体 ① 内 容:モラルの起源としての人間協働の意味 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第8回	テーマ(何を学ぶか):道徳的制度としての組織体 ② 内 容:「モラル主体」としての組織体観 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第9回	テーマ(何を学ぶか):「よい組織体」の構築 ① 内 容:経営倫理の制度化とコーポレート・ガバナンス 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第10回	テーマ(何を学ぶか):「よい組織体」の構築 ② 内 容:ステークホルダー志向の経営と「よい組織体」を評価する投資の仕組み 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第11回	テーマ(何を学ぶか):組織体を取り巻く多様な環境 ① 内 容:人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第12回	テーマ(何を学ぶか):組織体を取り巻く多様な環境 ② 内 容:人間環境・社会環境・自然環境との関連で 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第13回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例をめぐって ① グループ・ワーク 内 容:事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第14回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例をめぐって ② グループ・ワーク 内 容:事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
第15回	テーマ(何を学ぶか):具体的な事例をめぐって ③ グループ・ワーク 内 容:事例の検討と討議 教科書・指定図書 教員作成のレジュメ・資料を適宜配布
試 験	期末試験(筆記試験)

〔科目名〕 会社法Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 白石 智則		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講では、春学期の「会社法Ⅰ」の講義とあわせて、「会社法」(平成 17 年法律第 86 号)が定める基本的な法制度(特に株式・資金調達・設立・組織再編)について学びます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 いまの世の中、「会社」を経営したり、「会社」に就職したり、「会社」に投資したり、「会社」から商品を購入したりと、とにかく私たちは「会社」と関わらずに生きていくことはできません。会社法は、「会社」に関わるさまざまな関係者間の利害を調整する基本的なルールであり、これからの皆さんの生活とも深く関わります。							
〔科目の到達目標〕 「会社法」の基本構造を理解し、会社法にかかわる様々な法律問題を考えることができる能力を身につけてもらいます。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	DP4	DP1	DP2 ○	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 講義のやり方について特に否定的な意見はなかったので、引き続き拙著の教科書とパワーポイントを利用して講義を行います。							
〔教科書〕 拙著『会社法の教科書〔第 4 版〕』(2025 年)〔税込 1300 円〕 (前期の「会社法Ⅰ」で使用したものと同一、流通ルートに乗せていない自家版の教科書です。公立大の生協で購入してください。)							
〔指定図書〕 な し							
〔参考書〕 中東正文ほか『会社法 有斐閣ストゥディア』(有斐閣、第 2 版、2021 年) 江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣、第 9 版、2024 年) 高橋美加ほか『会社法』(弘文堂、第 4 版、2025 年) 田中亘『会社法』(東京大学出版会、第 5 版、2025 年) 岩原紳作＝神作裕之＝藤田知敬編『会社法判例百選』(有斐閣、第 4 版、2021 年) そのほかの参考文献については、最初の講義のときに紹介します。							
〔前提科目〕 な し							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内試験(小テスト(10%)と期末試験(90%))により評価します。 小テストを各講義日(最終日を除く)に実施します。授業を聞いていれば分かるような、簡単な正誤問題を出題します。Google Form を使用して試験を行いますので、指定の URL から受験してください。 期末試験では、基本的な知識を確認する選択式問題と、論述式問題を出題します(持込不可)。成績評価の際に出席状況を加味することはありませんが、全講義の3分の2以上出席していない者は失格とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 熱意をもって受講してくれることを期待します。	
〔実務経歴〕 な し	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ (何を学ぶか) : 総論・機関 内 容 : 会社法 I の復習、会社法 I の定期試験の採点雑観 教科書 拙著『会社法の教科書』第 1 章・第 2 章
第 2 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式(1) 内 容 : 株式の内容 (株式とは、株主の義務・権利、株主平等の原則、) 教科書 拙著『会社法の教科書』第 3 章 I 1 ～ 4
第 3 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式(2) 内 容 : 株式の内容 (株式の内容についての特別の定め、種類株式) 教科書 拙著『会社法の教科書』第 3 章 I 5 ・ 6
第 4 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式(3) 内 容 : 株式の譲渡 教科書 拙著『会社法の教科書』第 3 章 II
第 5 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式(4) 内 容 : 自己株式、株式の大きさ 教科書 拙著『会社法の教科書』第 3 章 III ・ IV
第 6 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の資金調達(1) 内 容 : 株式会社の資金調達 (資金調達の方法、新株発行とは、新株発行の方法) 教科書 拙著『会社法の教科書』第 4 章 I ・ II 1 ～ 3
第 7 回	テーマ (何を学ぶか) : 株式会社の資金調達(2) 内 容 : 株式会社の資金調達 (新株の発行手続、新株発行の差止請求、 新株発行の無効の訴え) 教科書 拙著『会社法の教科書』第 4 章 II 4 ～ 7

第 8 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の資金調達(3) 内 容： 株式会社の資金調達（新株予約権の発行等、社債の発行等） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 4 章Ⅲ・Ⅳ
第 9 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の計算(1) 内 容： 株式会社の計算（会社法会計、会計帳簿、計算書類等） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 5 章Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 1～5
第 10 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の計算(2) 内 容： 株式会社の計算（決算手続、資本金と剰余金） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 5 章Ⅲ 6～8・Ⅳ
第 11 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の設立(1) 内 容： 株式会社の設立（設立の概要、定款の作成） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 6 章Ⅰ・Ⅱ
第 12 回	テーマ（何を学ぶか）： 株式会社の設立(2) 内 容： 株式会社の設立（出資者の確定、出資の履行、機関の具備、設立登記、発起人等の責任等） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 6 章Ⅲ～Ⅶ
第 13 回	テーマ（何を学ぶか）： 組織再編(1) 内 容： 組織再編（組織再編の種類、事業譲渡、合併） 教科書 拙著『会社法の教科書』第 7 章Ⅰ～Ⅳ
第 14 回	テーマ（何を学ぶか）： 組織再編(2) 内 容： 組織再編（会社分割、株式移転・交換、株式交付）、株式会社の解散・清算 教科書 拙著『会社法の教科書』第 7 章Ⅴ～Ⅶ・第 8 章
第 15 回	テーマ（何を学ぶか）： 授業内試験（期末試験）・解説 内 容： まとめ 教科書 拙著『会社法の教科書』第 3 章～第 8 章
試 験	筆記試験（四択問題・論述問題）（第 15 回の講義の中で行います）

〔科目名〕 生産管理論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 風間 信隆		〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始前後 場所:教員控室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 企業が社会的に貢献し、信頼されるべき役割を果たし、経営そのものを安定化させるには、経営の品質を高めることが重要であり、日々の問題発見活動と問題解決が重要なポイントになる。何よりも「売れる商品」づくりはどのようにおこなうのか。また「売れる商品」をつくってもどのタイミングで売り込みを図るのか。何をいつまでにどのタイミングで仕入れ、つくり、品質とサービスの確保をおこなうのか、見込みと受注の割合はどの程度にするのか。生産事業でおこなう際に考えるべき、知っておくべき点は多い。こうしたものづくりの理論と手法を学ぶ。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 生産管理論は基本的に製造業の効率化・競争力強化を目指すものであるとはいえ、ここで学ぶ生産管理の基本（顧客志向の効率経営）はサービス業や非営利組織（NPO）、非政府組織（NGO）の経営にも応用可能である。これらすべての組織の存続・発展には顧客価値の創造が不可欠であるからである。							
〔科目の到達目標〕 日頃の規則正しい生活にも共通する生産管理の基礎理論や基礎概念ないしものづくりの基本的エッセンスを理解できるようにする。このものづくりの強靱化こそ、地域経済の発展ないし地域創世の基盤であり、東京一極集中のカギを握るといっても過言ではない。最終的にはこうした基礎的知識・思考方法を応用してのボトムアップ的な地域共創（local-creation）につながるものづくりの在り方を考察し、具体的に提案できるようになることを目指している。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業へのコメント・改善点があれば授業の際に申し出て頂きたい。受講者の感想・意見を取り込みながら授業の運営を心掛けたい。							
〔教科書〕 富野貴弘著『生産管理の基本』日本実業出版社刊、2017年(以下「富野教科書」と略す)。 信夫千佳子編著『生産性のマネジメント』文眞堂刊、2022年刊(以下「信夫教科書」と略す)。							
〔指定図書〕 授業時において適宜指示する。							
〔参考書〕 授業時において適宜指示する。							
〔前提科目〕 なし							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 学期末に定期試験を行う。 毎回、出席をとる。 原則として、中間レポートを課す。 以上の要素を最終評価にどのように反映させるかについては、「中間レポート」の提出要領の発表時に通知する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 大学での学修は、授業内容を単なる知識として「覚えていく」のではなく、授業内容自体を、「自ら考えていく」ための材料として、考える力を身につけ、伸ばしていくことが目指されている。その目的の達成につながるように、すなわち考える材料としての「現代企業論」になるような授業を行っていきたい。多人数の講義形式になると思うが、できる限り質疑応答も交えて、双方向のコミュニケーションができるように心がけるので、受け身の受講態度ではなく、積極的に授業に出席・参加してほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ものづくり企業の競争力(1) 内 容: 生産管理からものづくりへ、企業の競争力とは何か? 富野教科書・第1章 信夫教科書 第1章
第 2 回	テーマ(何を学ぶか):ものづくり企業の競争力(2) 内 容:日本のものづくりの強みと弱みと日本のものづくりの課題 富野教科書・第1章および信夫教科書 序章『ものづくり白書』(2024年版)2024 年版ものづくり白書 (ものづくり基盤技術振興基本法第 8 条に基づく年次報告) (METI/経済産業省)
第 3 回	テーマ(何を学ぶか):日本のものづくりの課題 内 容:日本のものづくりの人材育成の課題 富野教科書・第1章 信夫教科書 序章 ものづくり白書(令和6年版)2025 年版ものづくり白書(ものづくり基盤技術振興基本法第 8 条に基づく年次報告) (METI/経済産業省)
第 4 回	テーマ(何を学ぶか):大量生産システムの誕生と進化(1) 内 容:ものづくりの量産性の基礎とテイラーの科学的管理法 富野教科書・第1章 信夫教科書 第1章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか):大量生産システムの誕生と進化(2) 内 容:フォード・システム・GM のものづくりの意義と限界 富野教科書・第2章 信夫教科書・第1章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):大量生産・大量生産システムの限界と克服努力 内 容:トヨタ生産システムの柔軟性と硬直性 富野教科書・第2章 信夫教科書・第1章

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):セル生産方式の展開と製品アーキテクチャとモジュール化 変種変量生産への移行とアーキテクチャの変化 富野教科書・第1章と第2章
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): イノベーションと生産性 内 容:生産性のジレンマ、オープン・イノベーション 信夫教科書 第6章
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):デジタル化と生産性 内 容:デジタル化と生産性、デジタル・ネットワーク化と第 4 次産業革命 信夫教科書 第 7 章
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):グローバルサプライチェーン(SCM) 内 容:サプライチェーン・マネジメントと競争力 信夫教科書 第8章
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):品質管理 内 容: 品質とは何か、品質管理の考え方、品質改善の歴史と TQC 富野教科書・第3章 信夫教科書 第2章
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):コスト管理 内 容: 製造原価の把握と CVP 分析、生産性向上と改善活動 富野教科書・第4章 信夫教科書 第1章
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):納期管理 内 容: 納期と競争力・ものづくりにおける工程管理 富野教科書・第5章 信夫教科書 第8章「グローバル SCM と生産性」
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 製品開発の基礎 内 容:製品開発と競争力 富野教科書 第6章
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):製品開発の競争力 内 容:高品質かつ効率的な製品開発 シラバスに記載されている、科目の到達目標の解説 (再度) 富野教科書 第7章
試 験	期末試験を行います。

〔科目名〕 経営特殊講義Ⅱ（会計史）				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 山下修平		〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始前後のほか、メール対応 場所:講義室など				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本講義は、会計の歴史の概要を理解することを目的とします。具体的には、会計の起源や複式簿記の誕生から始めて、ヨーロッパにおける複式簿記の伝播や、株式会社会計の起源と発展等を扱い、現代における会計のグローバル化までを解説します。また、後半の 6 回程度を割いて、日本における会計史を解説します。 時代の変化とともに、誰かに「説明する」行為や、「記録と管理」の内容は変遷しています。会計を取り巻く環境の変化により、会計は発展してきました。本講義では、会計が誰に、何を求められてきたかを考察します。歴史を学ぶことにより、現在の事象や、今後の世界情勢の変化への対応に応用していただきたいと願っています。 現代の会計トピックに関連させながら、講義を進める予定です。現代の会計に関する諸問題を理解するためにも、会計の歴史と一緒にひも解いていきましょう。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ＜他の科目との関連付け＞ 会計に関する科目:「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」など。 会計史は、会計の歴史ではありますが、その背景にある経済事象の歴史、企業の歴史、経営の歴史にも強く関連します。幅広く視野を持ちながら学んで欲しいと思います。 ＜学ぶ必要性と意義＞ 会計史研究は、文字通り、会計研究と歴史研究の境界に位置する学問です。歴史を学ぶ意義を説明することは容易ではありませんが、実験室での完全再現が不可能な社会科学では、歴史に学び、現状を分析し、未来を予測することは大切な作業です。本講義では、会計を対象として歴史を学び、現在の会計の問題を見つめたいと思います。 おそらく、会計史を学ぶことが、すぐに会計実務に生かされることや、就職活動を有利に進めること、お金を稼ぐことに結びつくことはありません(残念ながら)。しかし、経営経済学部在籍する学生の「教養」として学んでほしいと願っています。							
〔科目の到達目標〕 会計の歴史の概要を理解することを目標とします。会計がどのように発達してきたのかを歴史的に学ぶことにより、現代の会計がどのように成立したのかを理解します。加えて、現代の会計に係る諸問題をより深く理解できる能力を獲得することを目標とします。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 これまでの授業において、「会計」「簿記」に苦手意識を持つ受講生が多くいました。そのため、「簿記を苦手としている学生にとってわかりやすい講義」を心がけてきました。必要な会計の知識は、復習をしながら講義を進めています。この点はおおむね好評でしたので、今年度も同じ方針で臨みます。会計や簿記に苦手意識を持つ学生の受講も歓迎します。板書のスピードやレジュメ配布の頻度など、授業の進行方法についてさまざまなご意見を頂いています。履修者の皆さんの声に耳を傾けながら、バランスよく講義を進めたいと思います。							

〔教科書〕 教科書は指定しません。教員が作成したスライドやプリント(レジュメ)、板書を用いて講義を行います。	
〔指定図書〕 野口昌良・清水泰洋・中村恒彦・本間正人・北浦貴士編『会計のヒストリー80』中央経済社、2020年。	
〔参考書〕 千葉準一・中野常男編著『会計と会計学の歴史(体系現代会計学第8巻)』中央経済社、2012年。 渡邊泉著『会計の歴史探訪―過去から未来へのメッセージ』同文館出版、2014年。 遠藤博志・小宮山賢・逆瀬重郎・多賀谷充・橋本尚編著『戦後企業会計史』中央経済社、2015年。 友岡賛著『日本会計史』慶應義塾大学出版会、2018年。 上野清貴編著『日本簿記学説の歴史探訪』創成社、2019年。 中野常男・清水泰洋編著『近代会計史入門 第2版』同文館出版、2019年。 このほか、講義中に適宜紹介します。	
〔前提科目〕 特にありません。ただし、「会計学基礎論」「財務会計論」「管理会計論」「監査論」などの会計学に関する科目を履修していると、より理解が深まると思います。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末試験を行います。講義毎に課題(小テスト・小レポート・リアクションペーパー等)を課します。 ＜点数の配分＞ 期末試験(まとめの試験)：40点(40%) 講義毎の課題：4点×15回＝60点(60%)	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・会計や簿記を得意とする学生だけでなく、苦手としている学生の受講を歓迎します。 ・前提となる会計学や簿記の知識に触れながら講義を進めますが、復習しておくとうれしいです。 ・該当する時期の世界史や日本史を復習しておくとうれしいです。 ・受講者の積極的な発言(質問・意見)を期待します。 ・現代における会計の諸問題と結びつけながら、講義に臨んでください。	
〔実務経歴〕 該当なし。	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか)： 会計史とは 内 容： 講義全体の概要を説明します。会計史を学ぶ意義について考えます。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第2回	テーマ(何を学ぶか)： 会計の起源と複式簿記 内 容： 古代における会計の起源と、イタリアで誕生した複式簿記について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第3回	テーマ(何を学ぶか)： ヨーロッパにおける複式簿記の伝播 内 容： ヨーロッパ(イタリア～オランダ～イギリス)において伝播した複式簿記の歴史的背景を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第4回	テーマ(何を学ぶか)： 株式会社の誕生と会計 内 容： 株式会社の誕生が会計の発展に与えた影響について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。

第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 固定資産会計の生成 内 容: 固定資産会計、とくに減価償却の考え方や、その生成と発展について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 財務諸表の生成と発展 内 容: 貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の生成と発展について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 管理会計の生成と発展 内 容: 工業化に伴って生成・発展した管理会計について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 職業会計人の誕生と監査 内 容: イギリスにおいて誕生した職業会計人と監査業務の変遷について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 日本会計史 日本の伝統簿記、西洋簿記の導入 内 容: 江戸時代における日本の伝統簿記を紹介し、明治維新後の西洋簿記の導入を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 日本会計史 明治時代～昭和初期 内 容: 西洋簿記の伝播、減価償却の導入、商法制定の影響、戦前の監査、職業会計人の誕生について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 日本会計史 戦時期 内 容: 統制経済期における会社経理統制の展開について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 日本会計史 戦後日本の企業会計体制 内 容: 証券取引法の制定、公認会計士による監査制度の導入、企業会計原則の制定などについて解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 日本会計史 公認会計士法と監査法人制度の変遷 内 容: 戦後日本における公認会計士法と監査法人制度の変遷について解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 粉飾決算事件の事例と、その対応の歴史 内 容: 世界と日本における粉飾決算事件の事例を紹介し、その対応の歴史を解説します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 会計ビッグバン、会計のグローバル化、そして今後の展望 内 容: 会計ビッグバンの時代背景と会計制度の特徴について解説します。また国際会計基準の整備と、世界各国や日本の動向を解説します。そして今後の展望を検討します。 教科書は使用しません。指定図書は別記。スライド・プリント・板書を用いて講義を行います。
試 験	期末試験(まとめの試験)を実施します。 講義で配布したプリントおよび自筆のノートの持ち込みを可とします。

〔科目名〕 労働法				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 三田村 浩 Hiroshi Mitamura		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 ・企業に就職する際、その企業と労働契約を締結し、一定の労働条件の下、労働者は労務を提供し、その代償として賃金を受け取ることになる。そこでは、使用者(企業)も労働者も、労働基準法などの法律や就業規則において、会社における行動などが規律されており、紛争防止の見地からも正しく理解・把握しておく必要がある。 ・本講義では、個別的労働関係法の分野に属する労働基準法を中心として、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法等、その他の労働関係法についても、時間の許す限り紹介する。憲法、民法及び商法(会社法)といった他の法律との関連も考察しながら、実務の分野にも目配りした幅広い講義を構成する。 ・学説及び判例を通じて、単に法的知識習得だけでなく、リーガルマインド(法的思考力)も養うことを目的とする。時にはアルバイトなどで経験する身近な紛争を題材にしながら、いかに対処・解決していくべきか、行政機関による救済の活用を認識した上で、これを探る。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 ・労働基準法を概観し、事例・判例を通じて、就職する際に、労働者として自分の身を守るべく必要最低限の法的知識を取得し、ビジネス法全般の基礎的学習として位置付ける。 ・他のビジネス法関連科目と併せて、社会人として必要な知識を取得する。 ・リーガルマインド(法的思考力)を養いながら法的知識を得ることで、社会人になってから遭遇するであろう様々な労働問題に対して、適切に対処できるようになる。							
〔科目の到達目標〕 ・到達目標は、労働法の知識を利用して、アルバイトや就職で遭遇する様々な労働問題に際して、冷静かつ的確な対処ができ、そこでは、実際に問題が起こったときに、単に主張するのみならず、状況をしっかり把握した上で、当事者間で円満に解決が図られるように、リーガルマインドを備えながら考察することができることである。 ・この目標に向けて、毎回授業で取り上げる重要項目を学習し、着実に法的知識を積み上げながら、労働問題に潜む背景をも踏まえ、真の解決に向けて利害調整できる能力が期待される。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 ・受講ルールは初回に資料とともに詳しく説明するが、欠席学生を想定し、授業内で適宜確認する。 ・毎時間、コメント用紙に学んだことをまとめてもらうが、質問・要望・感想もコメントしてもらうことで、授業方法に問題があれば早急に対処する。 ・受講生が必要最低限の知識を取得できるように板書を工夫し、作成した講義ノートは、予習・復習用の補助教材として確立する。 ・判例や新聞記事を利用して、できるだけ身近な最新の話題を提供することで、まずは労働法に興味を持ってもらえるように工夫する。 ・配布資料の活用や確認テストを通じて、理解度を深めていく。							

〔教科書〕 小畑史子、緒方桂子、竹内(奥野)寿、『労働法(第4版)』、有斐閣ストゥディア	
〔指定図書〕 講義の中で適宜提示	
〔参考書〕 講義の中で適宜提示	
〔前提科目〕 特になし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・期末テストとして、レポート課題(2題)を評価する(50%)。なお、課題内容は、授業で扱った労働法の論点から出題し、授業内で発表する。 ・コメント点として、コメント用紙を利用して、毎回の授業終了前に授業内容に対するコメント(その回で学んだこと、意見等)をしてもらい評価する(30%)。 ・小テスト点として、授業で実施する2回分をそれぞれ評価する(20%)。空欄補充問題、論述問題を予定する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ・初回に受講ルールに関する資料を配布するので、欠席の場合は受講前に教務課で受け取り確認すること。 ・労働法は、就職活動あるいは就職に向けて、時には自分の身を守るために必要不可欠な知識となるため、できるだけ多くの法律関係を理解し、学んでもらいたい。 ・単なる条文の暗記ではなく、あるべき法制度を考えながら学ぶ授業である。 ・単に法律関係の理解のみならず、なぜそのような状況になっているのか、制度や背景も踏まえて学ぶ必要がある。 ・教科書や資料を効果的に利用することにより、予習・復習を行ってもらう。 ・授業中、私語及びスマホ等の操作は厳禁である。 ・集中講義であるため、講義内容や受講ルールを理解し、しっかり参加できる学生に受講してもらいたい。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 労働法とは 内 容: 本授業の評価基準、労働法とは、憲法との関係 教科書・指定図書 教科書 2～13 ページ
第2回	テーマ(何を学ぶか): 労働法体系と労働法のアクター 内 容: 労働法体系、労働法のアクター、労働者性、使用者性 教科書・指定図書 教科書 13～14、25～30 ページ
第3回	テーマ(何を学ぶか): 労働契約の成立と採用内定 内 容: 労働契約、労使の自主的規範、労働契約の成立 教科書・指定図書 教科書 20～24、34～35 ページ
第4回	テーマ(何を学ぶか): 採用の自由と試用期間 内 容: 採用の自由、労働条件の明示、試用期間 教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ

第 5 回	テーマ(何を学ぶか):試用期間と採用内定の法的位置づけ(主要判例の検討) 内 容:三菱樹脂事件、大日本印刷事件 教科書・指定図書 教科書 46～59 ページ
第 6 回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の基本原則 内 容:労働契約の基本原則、平等原則、男女間の賃金差別の態様 教科書・指定図書 教科書 8～9、132～142 ページ
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):男女平等法理の展開と男女雇用機会均等法の成立 内 容:同一労働同一賃金、男女平等法理、男女雇用機会均等法の成立 教科書・指定図書 教科書 134～149 ページ
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):職場におけるセクハラと就業規則に関する規制 内 容:小テスト(1 回目)実施予定、職場におけるセクハラ、就業規則の作成・変更 教科書・指定図書 教科書 34～37、138～142 ページ
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更 内 容:就業規則の法的性質、就業規則による労働条件の変更、「合理性」の判断基準 教科書・指定図書 教科書 39～44 ページ
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):就業規則の不利益変更(主要判例の検討) 内 容:大曲市農協事件、第四銀行事件、みちのく銀行事件 教科書・指定図書 教科書 35～44 ページ
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):賃金 内 容:賃金とは、休業手当、最低賃金法 教科書・指定図書 教科書 80～96 ページ
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):労働時間 内 容:小テスト(第 2 回)実施予定、労働時間とは、柔軟な労働時間制度(変形労働時間制) 教科書・指定図書 教科書 98～99、111～113 ページ
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):裁量労働制と休憩・休日・休暇 内 容:裁量労働制、休憩、休日、年次有給休暇 教科書・指定図書 教科書 98～116、118～124 ページ
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):労働契約の終了 内 容:合意解約・辞職、解雇 教科書・指定図書 教科書 168～176 ページ
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):まとめと振り返り 内 容:整理解雇をめぐる主要判例、全授業のまとめと振り返り 教科書・指定図書 教科書 176～179 ページ
試 験	レポート課題の提出(2 題)

〔科目名〕 非営利組織会計				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 池田 享誉 Yukitaka Ikeda		〔オフィス・アワー〕 時間:最初の授業中に通知 場所:514 研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 平成 10 年の特定非営利活動促進法施行を契機として、非営利組織は広範な社会的役割を担うようになってきた。 非営利組織は多種多様で、その範囲は、公益法人、中間法人(協同組合等)、権利能力無き社団・財団(学術団体や町内会等)、さらには冒頭の特定非営利活動法人という組織にまで及んでおり、統一的な会計(会計基準)が完備しているわけではない。 本講義では、まず営利組織(企業)との比較において非営利組織会計に特有の諸性質を明らかにし、その上で、いくつかの具体的な非営利組織の会計を概観していく。 さらに、米国の非営利組織会計について取り上げ、利益獲得を組織目的とはしない非営利組織が、財務報告において提供すべき情報は如何なる情報かを考えることにより、今後のわが国の非営利会計の発展の方向を考えてもらう。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 大学カリキュラムにおける会計・財務分野は、主として企業(営利組織)を対象とした科目群から構成されている。しかしながら、社会は、非営利組織などの多様な経済主体によって構成されている。 近年、非営利組織の会計に企業会計の手法を導入することにより、非営利組織活動の効率化を図ろうとする動きが活発になっており、学生の皆さんがこれまでに学んだ企業会計の知識を生かせる環境が整いつつある。企業会計の知識を有する皆さんが、本科目で非営利組織の会計についても学ぶことにより、将来、社会で働く際に非営利組織の会計に携わるという選択肢が増えることにつながる。							
〔科目の到達目標〕 利益の獲得という共通の組織目的を有する営利組織(企業)とは異なり、非営利組織の目的や使命は、非営利組織の数だけあるといっても過言ではない。 本講義の目標は、利益獲得を組織目的とする営利組織の会計(企業会計)と多様な組織目的を有する非営利組織の会計との、類似点と相違点を明確にし、非営利組織の会計の特殊性を理解するとともに、非営利組織の会計が担う社会的責任についての理解を深めることである。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3 ○	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の皆さんからよい授業評価をいただきうれしく思っています。 今年度も、学生の皆さんのためになる内容をわかりやすく教えられるように心がけていきたいと思っています。	
〔教科書〕 なし	
〔指定図書〕 『体系 現代会計学〔第9巻〕 政府と非営利組織の会計』中央経済社 池田享誉『非営利組織会計概念形成論』森山書店	
〔参考書〕 授業の中で適宜紹介する。	
〔前提科目〕 会計学基礎論、財務会計論、管理会計論	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 期末テストにより評価する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本科目は、理論科目なので簿記の計算は扱わないが、理論を理解するために簿記の知識は必要となる。したがって、履修学生への要望としては、まず、「会計学基礎論」で学んだ簿記の計算構造を十分理解していることが求められる。 さらに、営利組織(企業)会計との対比により説明することが多いので、「財務会計論」および「管理会計論」の講義で学んだ企業会計理論を理解していることも履修学生には求められる。 教員としてこの授業に取り組む姿勢としては、企業会計とは異なる非営利組織会計の特殊性を理解してもらうために、できるだけ具体的な事例を用いて説明する。そのうえで、現行基準の理解にとどまらず、問題点についても考える力を身につけてもらいたい。本講義では、企業会計基準および理論を理解していることを前提として講義を進めるので、企業会計基準および理論の理解に不安のあるものはオフィスアワーを利用して相談に来てください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ：イントロダクション： 内 容：非営利組織とは何か
第2回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点①

第 3 回	テーマ：非営利組織の特徴 内 容：営利組織との類似点と相違点②
第 4 回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点①
第 5 回	テーマ：非営利組織会計の特殊性 内 容：営利組織の会計との類似点と相違点②
第 6 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 昭和 60 年公益法人会計基準
第 7 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 10 年 NPO 法人会計
第 8 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 12 年社会福祉法人会計基準
第 9 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 13 年宗教法人会計
第 10 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 16 年公益法人会計基準
第 11 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 20 年公益法人会計基準
第 12 回	テーマ：わが国非営利組織会計基準の変遷 内 容： 平成 22 年 NPO 法人会計基準
第 13 回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：米国における非営利組織会計
第 14 回	テーマ：わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
第 15 回	テーマ： わが国非営利組織会計の将来像 内 容：国立大学法人会計基準
試 験	筆記試験

〔科目名〕				〔単位数〕		〔科目区分〕	
職業指導				4 単位		教職科目(教科必修) 経営学科(選択)	
〔担当者〕		〔オフィス・アワー〕				〔授業の方法〕	
三上 雅也		時間:初回の講義で連絡する 場所:同上				講義	
〔科目の概要〕							
本科目は、高等学校商業科の教員免許状取得の必須科目であることを踏まえながら、個人が職業を選択する課程において、学校で行われる職業指導(近年は「進路指導」「キャリア教育」として取り扱われていることが多い)がどのような意義をもち、どのように機能しているのか。また、実際の場面において、どのような指導が行われているのかなど、教育免許状の対象である高等学校の教育段階に限定しないで、職業指導・進路指導・キャリア教育についての基本的な理論・考え方について講義を進めていく。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕							
教職の専門科目である「進路指導の理論と方法」と内容的に重複する部分があるが、教科としての職業指導の経緯などを理解することになるので、結果として進路指導やキャリア・ガイダンス等についての理論と方法の習得につながる。							
〔科目の到達目標〕							
本科目では、職業指導・進路指導をどう捉え、どう理解するかを第一のねらいにしている。したがって、今日のキャリア教育(論)の経緯などにも触れながら、講義全体を通じて、望ましい勤労観・職業観の確立に努める。 なお、学士力や社会人の基礎力にも通ずる自己のライフ・デザインの確立と自他との交流(リレーション)する力を身につけるため、講義形式のほかに意見を求める双方向の授業やグループ・ワーク等のエクササイズも取り入れた授業展開をする。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
		○	○		○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
経営学科の専門科目ではあるが、商業の免許状を取得する際の必須科目である。教職課程の教科に関する科目としてはボリュームのある4単位(30時間)であるにもかかわらず、教職課程履修者以外の受講した学生も多いので、エクササイズや発表なども積極的に導入した授業展開を予定している。また、授業回数が多いので、内容の節目で「まとめと確認」を行う。							
〔教科書〕							
特に指定しない							
〔指定図書〕							
特に指定しない							
〔参考書〕							
佐藤 史人 他「新時代のキャリア教育と職業指導」 法律文化社 文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」(文部科学省の HP で確認できる) 文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き中学校・高等学校学習指導要領(平成29年・30年告示)準拠」(文部科学省の HP で確認できる) 寺田 盛紀「日本の職業教育」 晃洋書房							

〔前提科目〕 教職課程の履修科目である「進路指導の理論と方法」など。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義時のワークシート(簡易なレポート含む)作成・提出。 評価は、ワークシートの提出状況、記載内容及び試験(レポート)の結果を踏まえて行う。 欠席が全講義回数の1/3を超える場合は単位認定の対象外とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 講義はパワーポイント等で適宜資料を提示する。講義をしっかりと聞き、ワークシートを作成し提出すること。 通常の講義形式の授業形態のほかにグループワークなども実施する予定であるので、授業に主体的に参画するようにする。欠席する場合は、連絡・報告すること。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第1回	テーマ(何を学ぶか):オリエンテーション 内 容:科目「職業指導」の概要、講義スケジュール、「評価」と基準等について 教科書・指定図書 スライド投影
第2回	テーマ(何を学ぶか):職業の語義と種類と産業構造の変化と職業1 内 容:職業の語義と職業の種類について 戦後の混乱から高度成長時代について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第3回	テーマ(何を学ぶか):産業構造の変化と職業2 内 容:安定成長時代からIoTとAIの時代について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第4回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の職業の特徴について1 内 容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第5回	テーマ(何を学ぶか):組織社会の職業の特徴について2 内 容:日本社会の特徴を組織から考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第6回	テーマ(何を学ぶか):キャリア開発と職業指導 内 容:キャリア開発と職業指導について考える 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第7回	テーマ(何を学ぶか):職業指導について 内 容:職業指導、進路指導及びキャリア教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第8回	テーマ(何を学ぶか):職業指導の指導領域 内 容:職業指導が行なわれている場所について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第9回	テーマ(何を学ぶか):職業相談の役割 内 容:職業相談と進路相談について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート

第 10 回	テーマ(何を学ぶか):職業適性とその分類 内 容:職業適性について知る 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):職業適性に関する検査 内 容:職業適性検査の具体について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):学校におけるキャリア開発と支援 内 容:義務教育学校におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア開発と支援 内 容:商業科におけるキャリア開発と支援 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):雇用に関する権利と義務 内 容:雇用者と被雇用者のトラブルについて 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援 1 内 容:海外の地域の特徴と日本との違い 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 16 回	テーマ(何を学ぶか):世界のキャリア開発と支援 2 内 容:海外の地域の特徴と日本との違い 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 17 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 1 内 容:若者の「社会的・職業的自立」 「学校から社会・職業への移行」を巡る経緯と現状 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 18 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 2 内 容:キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性 発達段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 19 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育の必要性和意義 3 内 容:高等学校におけるキャリア教育・職業教育の充実方策 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 20 回	テーマ(何を学ぶか):「キャリア発達」 内 容:ライフ・キャリアの虹について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 21 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育と職業教育と進路指導 内 容:職業教育を通じたキャリア教育の重要性 進路指導の定義と諸活動 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 22 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 1 内 容:設置形態、学科の特質に応じたキャリア教育 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート

第 23 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 2 内 容:校内組織の整備の推進 計画の作成について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 24 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育の推進 3 内 容:連携の推進 キャリア教育の評価 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 25 回	テーマ(何を学ぶか):高等学校におけるキャリア教育実践 内 容:高等学校におけるキャリア発達 系統的なキャリア教育の取組 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 26 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 1 内 容:商業高校における体系的なキャリア教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 27 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 2 内 容:将来のスペシャリストの育成 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 28 回	テーマ(何を学ぶか):キャリア教育・商業教育の在り方 3 内 容:商業教育について 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 29 回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 1 内 容:キャリア教育の指針(総論編) 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
第 30 回	テーマ(何を学ぶか):本県におけるキャリア教育 2 内 容:キャリア・パスポート 教科書・指定図書 スライド投影、ワークシート
試 験	レポート

〔科目名〕 地域企業論Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 基幹科目（地域みらい） 展開科目（経営）	
〔担当者〕 生田泰亮 IKUTA Yasuaki		〔オフィス・アワー〕 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室(大学院棟)			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 地域企業論Ⅱにおいては、地域企業の環境分析と戦略策定について学ぶ。具体的には『中小企業白書 小規模企業白書 2025 年版』を教科書として、これを読み解くことを中心に講義を進める。主に、統計データを読み、地域企業を取り巻く環境変化、最新の動向を読み解く力を身につける。また、教科書の進捗状況に合わせて、企業の経営課題や専門知識について解説していく。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域企業論Ⅰで学んだ内容を基本として進める。本講義は、多くの科目と関連性のある「総合的な科目」「中核的な科目」である。関連づけ、反復することで「有効な思考法」を身につけるよう努力することを求める。							
〔科目の到達目標〕 地域企業論Ⅰ,Ⅱの両講義を通じて、以下のような目標とする。 (1) 地域の経済、産業、市場、企業の動向を理解するための「基礎知識」を学ぶ。 (2) 企業がおかれた社会、市場、産業などの「環境分析」ができる。 (3) 企業の経営政策、事業戦略についてのデータ分析やケース・スタディを行い「問題解決策の立案」「戦略策定」や「政策提言」ができる。							
〔ディプロマ・ポリシー(DP)との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 用語の解説等に関しては、学生のみなさんが実際に予習復習されることを想定して解説するなどしており、その点を評価いただけて嬉しい限りです。 声が聞き取りづらい時があった場合は、講義が終わってからでもよろしいので、遠慮なく質問、確認を申し出てください。							
〔教科書〕 中小企業庁編『中小企業白書 小規模企業白書 2025 年版 上 』日経印刷株式会社、2025 年。 他、適宜、資料を配布。							
〔指定図書〕							
〔参考書〕							
〔前提科目〕							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題レポート:30%、期末試験:70%（詳細は講義内で説明する） ※講義進行の妨げとなる行為があり、注意を聞き入れない場合は、当該学生の本科目の評価を「F」とする。							

〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕

予習として「教科書の各回の指定範囲を必ず読み出席する」こと。

予習していることを前提に講義を進めるので、この点、十分に留意して取り組んでほしい。

大学での学びにおいて、講義はあくまでもその専門分野の初歩、イントロダクションであり、講義をきっかけにさらに自ら学習することが求められる。シラバスへの記載事項、講義中にもお伝えしている事項について、十分に理解されずに受講し、評価アンケートに回答している学生が見受けられる。履修されるか否かは、シラバスをよく読み、初回の講義での説明をよく聞き、よく検討し、ご理解いただいた上で決めるよう求める。当然のことながら、履修した以上は、しっかりと学習することを求める。受講態度の悪い学生（遅刻、欠席）、周囲の迷惑（私語等）になるような行為には厳しく対処する。講義内容以外にも学習方法等についての相談にも応じているので、遠慮なく。

〔実務経歴〕

該当なし

授 業 ス ケ ジ ュ ー ル

第 1 回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション 内 容： 講義内容と進め方について 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 中小企業・小規模事業者の業況、金利・為替・物価、雇用環境 教科書・指定図書 第 1 部第 1 章、第 2 章、第 3 章
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 労働生産性・設備投資・デジタル化・DX、価格転嫁、賃金・賃上げ 教科書・指定図書 第 1 部第 4 章、第 5 章、第 6 章
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 倒産・休廃業・事業承継、中小企業・小規模事業者に求められる共通価値、 教科書・指定図書 第 1 部第 7 章、第 8 章、第 9 章
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容： 経営戦略 教科書・指定図書 第 2 部第 1 章第 1 節
第 6 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：経営の透明性・開放性 教科書・指定図書 第 2 部第 1 章第 2 節
第 7 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：ガバナンス体制 教科書・指定図書 第 2 部第 1 章第 3 節
第 8 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：人材戦略 教科書・指定図書 第 2 部第 1 章第 4 節
第 9 回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：経営者の成長意欲 教科書・指定図書 第 2 部第 1 章第 5 節、第 6 節

第10回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：成長する中小企業が我が国経済に与える影響 教科書・指定図書 第2部第2章第1節
第11回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：スケールアップに向けた課題 教科書・指定図書 第2部第2章第2節
第12回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：スケールアップに向けた投資行動と海外展開（1） 教科書・指定図書第2部第2章第3節（1）
第13回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：スケールアップに向けた投資行動と海外展開（2） 教科書・指定図書 第2部第2章第3節（2）
第14回	テーマ（何を学ぶか）：『中小企業白書』を読み解く 内 容：まとめ（第2部第2章のまとめ） 教科書・指定図書 第2部第2章第4節
第15回	テーマ（何を学ぶか）：講義のまとめ 内 容：講義全体のまとめと期末試験について 教科書・指定図書
試 験	期末試験を実施する。詳細は講義中に説明する。

〔科目名〕 地域社会論Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕	
〔担当者〕 佐々木てる		〔オフィス・アワー〕 時間:授業開始時に指示 場所:授業開始時に指示:				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 青森県では少子高齢化が進み、人口減少、短命県などが問題として指摘されている。また、若者の県外流出なども今後の県の将来を考える上で重要な問題となっている。同時に青森県は地域文化や産業の点で日本を代表するものが存在する。そのため県の取り組みとしても「課題を克服」し「強みをとことん生かす」ためのアイデアが重要視されている。 この授業では、上記のような認識を前提に、海外からの観光客の誘致、外国籍者の労働力の導入、国際的なマーケットへの参入、永住外国人の現状といった視点からそれらの課題を捉えなおすこととする。具体的には下記のテーマが中心となる。 (1)「交流人口」:インバウンドを中心とした海外からの観光客についての分析、ニーズの把握。 (2)「循環人口」:いわゆる単純労働で海外から来日、もしくは青森に来ている外国籍者の現実と実情。 (3)「共生人口」:人口減少地域に対応するための外国人、移民政策について。永住、帰化、国籍などに関して。 これら 3 つのテーマを学ぶことによって最終的には、日本型もしくは青森としての多文化共生、共創社会を構築していく視点を醸成させることにする。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 決定的な人口減少を迎えている青森県の住民として、その問題の根幹を理解し、解決するための手立てを考えることは急務の課題である。そしてそのことは、次世代を生きる人間としての責務であり、今まさに問われている問題といえる。 日本国内の人口減少を補う人材として、海外からの移住者の受け入れは一つの選択肢であり、そこで必要とされている議論を学ぶことは重要である。人口減少解決のための新しい視点を学ぶことができるだろう。そして同時にこのことはワールド・ワイドで活躍するための基礎となることを学ぶことにもつながる。そして海外から人に来てもらう、もしくは海外に青森を売り込む際に、授業で扱う題材を知ることは有益な情報となるだろう。							
〔科目の到達目標〕 人口減少という問題をもう一度捉えなおし、その根本問題、解決策を提示できるような思考を養う。特に海外からの人材の導入、もしくは海外への売り込みという視点を自分なりに発展させていくことが目標となる。同時に海外の事例を学び、日本社会に応用可能か、またその際の課題などを自らの視点で指摘できることも目標となる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○	○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 授業終わりにコメント用紙を書いてもらい、そこでの指摘を授業に取り入れ、改善を行っていく。 コメント用紙の配分点のつけかたなど、成績評価の方法をより明確に提示する。特に第一回目の授業において方針を明確にしていく。							
〔教科書〕							
〔指定図書〕							

〔参考書〕	
〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・提起的にコメント用紙を書いてもらい、評価を行う。 ・授業中盤で確認試験を行い、理解度をはかる。 ・最終に試験を行う。出題内容は授業内容に関するもの。 主に論述式で、知識および解釈力、主張を問うものとする。 毎回出席はとる予定である。そのため当然のことではあるが授業は出席することが大前提である。 特に第一回目の授業は評価の方針、内容に関する確認などを行うため、本講義を受講予定のものは必ず出席すること。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 なによりも自分の住んでいる地域の文化や産業について、積極的に興味を持ち、知識を増やしてほしい。授業で伝えたこと以外でも、興味のあることを自分自身で調べる姿勢が望まれる。 また知り得た知識や考えなど、意見を求める機会も与える予定でいるので積極的に発言してほしい。自分と周囲に住んでいる人、自分が住んでいる社会について、主体的に働きかける気持ちを常にもって授業に参加してほしい。	
〔実務経歴〕	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ： 世界から青森へ、青森から世界へ 内 容： ガイダンス 導入として人口減少対策としての外国人・移民政策の必要性を学ぶ
第 2 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(1) 内 容： 人口減少問題の根幹:理論的視点を考える。また労働力確保の方策としての ICT の導入と外国人労働者の導入について考える。
第 3 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(2) 内 容： 外国籍労働力を日本に積極的に導入するにあたり、その前提となるような外国人・移民政策についての理論的な視座を紹介する。
第 4 回	テーマ： 人口減少問題と外国籍労働力(3) 内 容： 前回は引き続き、外国籍労働者・移民は人口減少対策の切り札になるのかを考える。特に市民権理論と多文化共生の理論を紹介し、外国籍労働者・移民の増加にともなう課題と問題を考える。
第 5 回	テーマ： 交流人口(1) 内 容： インバウンドとはなにか、その問題点を考える。特に青森県の事例を中心に行う。
第 6 回	テーマ： 交流人口(2) 内 容： 青森県内の祭を中心に、その国際性の在り方について考える。

第7回	テーマ：循環人口(1) 内 容： 技能実習制度をとらえる。特に青森県、八戸市や弘前市の事例を中心に、技能実習制度とはなにかを学ぶ。
第8回	テーマ：循環人口を考える(2) 内 容： 内 容： 送り出し国の現状を紹介し、国際的な労働力移動について学ぶ。特にベトナムの事情を紹介する。
第9回	テーマ：青森県の共生人口を考える(1) 内 容：三沢の米軍基地の事例、ネパール人の事例、永住フィリピン人と帰化の事例などを通じて青森の共生人口を学ぶ。
第10回	テーマ：青森県の共生人口を考える(2) 内 容： 青森以外の永住者と共生に関する事例をとりあげ、青森県との比較を行う。
第11回	テーマ：グローバル時代の移民政策(1) 内 容： 多文化共生に関する現状を、世界と日本を比較することによって学ぶ。特に理論的なものとしてエスニシティの概念を学ぶ。
第12回	テーマ：グローバル時代の移民政策(2) 内 容： 世界の移民の事情などを海外の事例を通じて学ぶ。特にアメリカ合衆国、オーストラリア、ニュージーランドなどの事例を紹介する。
第13回	テーマ：多様性のある地域社会に向けて(1) 内 容： 外国人・移民政策の根幹として国籍政策や帰化というものについて学ぶ。外国人から国民へ編入するための制度的な視点を学ぶ。
第14回	テーマ：多様性のある地域社会に向けて(2) 内 容： 現在の日本の多文化、多民族的な状況を確認し、マルチ・エスニック・ジャパニーズという概念を学ぶ。
第15回	テーマ：青森から世界へ、世界から青森へ 内 容： 青森県の強みを再度考え、課題を考察する
試 験	

[科目名]				[単位数]		[科目区分]	
開発経済学—貧困(束縛)からの自由を求めて				2 単位		専門科目 展開科目	
—映画・ビデオをみて“貧しさ”について共に考えてみませんか—							
[担当者]		[オフィス・アワー]				[授業の方法]	
大 場 裕 之 Oba Hiroyuki		時間:集中講義中、いつでもOK				[授業の方法]	
hooba@reitaku-u.ac.jp		場所:教室、教員控室				講義・演習	
[科目の概要]							
- この科目では、開発経済学(近代経済学)が前提とする人間観(合理的経済人)・生き方を問い直し、「共創」の視点から、新たな判断軸(共創マインド)を身に着けることを狙いとする。 - この目的のために、ビデオ教材(DVD 映画など)を用いて、日本や世界を「共創空間」で共に旅をしながら、旅先の人々を見ながら、クエスチョンを探し、共創空間開発技法(略称 CSD)によって、その人たちと向き合い、彼らを「鏡」として日本人や自分の生き方を問い直す。 - 旅先としては、日本(青森県)や、成長著しい南アジア(インド・ブータン)とする。「自由」、「豊かさ」、「幸福」、「健康」、「飢え渴き」などをキーワードとして、貧しき経済人の生き方を具体的に考える。 この科目で実践する「共創」の旅を通じて、“経済人(の合理性)”の魅力と落とし穴に気づき、共創スキルを身に着け、“共創人”として、日々の生き方の質、人生の質を高めるヒントを掴むことが期待されている。							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか]							
- この科目は、経済・経営学や心理学、開発論、モチベーション論、コミュニケーション論、意思決定論、ライフスタイル論などと関連しており、一つの専門分野だけでは、解決できない問題を取り上げる。 - 学んだことは何に結びつくのか？ ①「共創マインド」を習得することによって、日々の生き方・生活の質を引き上げ、人生の様々な局面における価値判断や意思決定をする時に役に立つ。 「共創マインド」を習得した人財として、将来のあらゆる職業(国際機関、国、地方団体、民間企業、NPO機関など)に結びつき、経済開発だけではなく、商品開発、人材開発、地域開発、社会開発、モチベーション開発などのプロフェッショナルとして、また問題発見・問題解決能力を有する<共創>エキスパートとして活躍できる。							
[科目の到達目標]4つのポイント							
1. 経済合理性の視点(1+1=2)を吟味し、「共創的視点」を持つために、CSD 技法を実践すること。 2. 「共創空間」でキャッチボールしながら、具体的な問いを発見し、1+1=2 だけではない答えを探究すること。 3. 貧しき経済人の考え方・感じ方を CSD 技法によって、具体的かつ客観的に「見える化」し、どこに問題があるのか、共に発見し、その原因と解決策を明らかにするスキル（価値判断力、問題発見・解決力、コミュニケーション力などコア・ライフ・スキル）を習得すること。具体的には、聴く耳を持てるようになること、自己表現力を身につけることができること、他者との協働による“気づき”が可能となること、プレゼンテーション能力およびリポーティング能力を磨くこと。 4. 「共創空間」で共有化された問題を考えることにより、学ぶことの意味や意義が明確となり、自分の生き方と向き合うことによって、<u>生きる意欲</u>が生み出され、自らの日々の意思決定や将来設計に役立つ。							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
○	○	○	○		○	○	

【学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫】 2025/5/30 提出(昨年24年度一部22年と23年)

(1) 授業評価に関する全体的な印象

評価点が高いこと、また、授業中の真剣な態度とアンケートの設問(全12項目)に対する前向きな回答とが一致していたので、嬉しい限りです。より達成感のある充実した授業を目指すために、以下の4点について、確認し、より明確化し、共有化したいと思います。

- ① 問2(成績評価の基準の明確化)について：最初の授業で明確に基準を提示するので、最初の授業を逃さないように。基本的には、学習態度と学習成果を評価する。具体的には、授業で実施する「共創空間」での貢献度(活動成果)と共創リポートによって評価する。
- ② 問3(質の高い授業内容)について：質の高さは、新しい知見が得られる達成度の高い授業を目指しているが、昨年度は、想定以上の成果があった。共創空間は開発技法(CSD)を用いて、ひとつのテーマについて、共有化されたクエスチョンから、多様な視点(答え、仮説)を発見する。このプロセスを体験することによって、問題発見・解決力やクリティカル思考力、共感力、自己認知力などのコア・ライフ・スキルを身に着けること、また、ものごとの本質を捉える能力を磨くことに主眼を置いている。
- ③ 問9(学生の質問・相談への配慮)について：集中講義という性格から、短期間なので、授業中もしくは授業開始前や終了後に相談に乗ります。
- ④ 問10(自習時間)について：集中講義なので、講義を受講するにあたって予習する課題(事前学習)の時間と講義終了後に実施するリポート作成の時間(見込み)を「自習時間」と見做してください。

(この授業を通じて、開発経済学が前提としている、いわゆる“合理的経済人(人間観)”を問い直し、コア・ライフ・スキルを身に着けることによって、大学生活や就職だけではなく、これからの人生の質を向上するための宝となるはずだ。)

(2) 自由記載欄の学生の意見とそれに対するコメント(◆の部分)

優れた点：

- ★会話が深い
- ★学生が参加できる点◆一つのクエスチョンに対して、参加者一人一人の意見(答え)が尊重される。DEI(Diversity 多様性・Equity 公平性・Inclusion 包括性)が実現される空間で学びが展開します！！
- ★共創空間が初めての体験で面白かった。いろいろな講義に取り入れてもいいと思う。★自分の意見を考え、言語化するという点

問題点：「特になし」

改善の提案や要望：特になし

(参考まで：優れた点 22・23年度)

- ・コミュニケーションが取れる。自分の話したいことを自由に話せる。楽しくできる。◆絶えず言葉のキャッチボールをしながら進行するスタイルなので、リズム感がある授業です！
- ・映画やDVDを見て、そこで注目したキーワードやキーワードをピックアップして、自分の考えや経験を伝えることで、自身の説明力を養うことができた。また他の人の意見を聞くことで、異なる立場の考えも知ることができ、視野が広がった。
- ・共創空間という、自分ひとりでは成し得ない経験が出来、他の人の考えや意見・価値観に触れて自分をより豊かなものにできる点。
- 大学の講義ではなかなか出来ない交流や双方向の意見発信、コミュニケーションがとれる点。
- ・授業内容だけでなく、みんなと楽しくコミュニケーションをとれる時間もあったこと
- ・人間観が養われる授業で、本当に履修してよかったと思う。他の人の意見も聞き入れることで今までなかった発想が出てきて良い意味で刺激を貰える。是非、この授業を受けれるならば受けた方がよいと思う。◆AIでは決してできないスキルを磨けるので、是非体験してみてください！
- ・先生や周りの学生との会話、意見交換を軸にして授業が展開されるので、自分の意見を生み出す力や周囲の考えを理解しようとする思考力が身につくと感じた。

経済学で問題にする人間観についてここまで掘り下げる授業はなかなか無いと思う。

1日3コマ全5日の日程であったが非常に充実していた。

・他者の意見を聞くことで自分の考えや価値観が豊かになる点。自分の考えを人に正確に伝える力が身につく点。◆人生を生きる上で、大切なこと、ホンモノに触れられる場ですので、是非参加されることを熱望します。待っています！！

・コミュニケーションが多く、自分の意見を発信したり他人の意見を聞くことが出来、考えをまとめたり広げたりできる時間でした。珍しい授業形式で、ワクワクしながら取り組むことが出来ました。ありがとうございました！

【教科書】(事前に配布予定)

大場裕之＋ライフスタイル研究会[2013]『「共創空間」で地球を旅しよう～ライフスタイルの再発見～』

(Working Paper No. 56) 麗澤大学経済社会総合研究センター。

【指定図書】

- ・渡辺利夫[2001]『開発経済学入門』東洋経済新報社。
- ・大場裕之＋「共創空間」開発プロジェクトチーム[2015]『共創空間開発学のすすめ—知のイノベーションの新技术』麗澤大学出版会。
- ・大場裕之＋ライフスタイル研究会[2015]『「共創空間」を開発することの学問的意義—「共創空間開発学」の構築を目指して—』(Working Paper No. 68) 麗澤大学経済社会総合研究センター。
- ・大場裕之＋大場ゼミナール[2007]『学問力のすすめ—“活きた”学問を楽しむために』麗澤大学出版会。
- ・田中拓男[2006]『開発論—こころの知性』中央大学出版部。
- ・我妻和男編著[2005]『光の国・インド再発見』麗澤大学出版会。

【参考書】授業時に必要に応じ提示

【前提科目】なし

【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)

- ・コースプラン、内容などについての詳細は、授業の開始時に担当の教員から指示される。
- ・事前学習として、配布されたテキストを読んで、印象に残ったこと、疑問に思ったことなどをレポートにすることを課す。
- ・授業中にディスカッションのために必要となる基本的知識を習得するためのクイズ形式の課題を毎回行う。
- ・共創マトリックス手法を活用した全員参加型の授業を行うため、そのための予習・復習が必要となる。
- ・ディスカッションによって得られた成果やさらなる問題・疑問について、発見メモを作成すること。
- ・この講義を通じて最も関心を持ったことや役に立ったことについて発表するチャンスを用意する。
- ・この講義の最後には、5日間を振り返る総括討論を予定している。
- ・期末試験は実施せず、達成度(学習成果)を評価する「共創」リポートに置き換える。

【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 教員としてこの授業に取り込む姿勢 この科目は、開発経済学が前提としている人間モデルを問う新しい試みであるので、現行の学問の専門知識にのめりこまずに、問題を発見すること、関心を持つこと、高めることに主眼を置いている。また、“ラクする楽しみ”ではなく、“共に創造する楽しみ”を共有すること念頭において取り組む。さらに、「共創空間」というスペースの中をタイムマシンの飛行機(?)に乗って、現在の地球だけではなく、過去と近未来の地球を飛び回ることによって、学生諸君一人一人の「よい(良い・善い)生活・人生」探しのためのヒントを提供したいと思っている。 ・学生への要望 対話形式、キャッチボール(ドッチボールではない)スタイルの講義なので、積極的な学生が望まれる。講義の基本方針に基づき、自由に意見を言える場なので、その主旨を十分理解し、各自が責任をもって参加すること。なお、「共創」リポートの書き方については、授業時に説明する。ただ単に知識を鵜呑みにせずに、絶えず問うことを大切にほしい。また、楽(ラク)する楽しみではなく、“脳ミソに汗をかく”楽しみ方を是非発見してほしい。	
【実務経歴】 海外産業人材育成協会(AOTS、経済産業省の研修機関)	
2025 授業スケジュール(受講生のニーズに基づいて一部変更する可能性あり)	
DAY 1 (12/20) 旅立ち スマイル 1～3 講 2・3・4 「共創空間」の中で 日本からインドへ旅立つ 束縛からの自由を求める希望の旅	テーマ1: 貧しき経済人を問題とする旅ー 開発経済学が前提とする“経済合理的人間”の貧しさとは？ 内 容: 経済合理的(損得で動く)人間の“貧しさ”を吟味する共創への旅ようこそ！ ◎学問力のすすめ 気づいたこと、おやっと思ったこと、「問い」を発見する意欲が欠乏している？ この意欲の欠乏こそが、「貧しさ」の正体。従って、意欲だけではなく、様々な欠乏を探す旅となる。 わたしたちは、経済人ですか(自分を経済人と思ったときある)？ 好き・嫌い？ 経済人としての貧しさ(欠乏): 気づいている、それとも気づいていない？ ⇒貧しき経済人とは、「自分は正しい」として、他者軸の欠乏した自己中心的人間。 旅立ち: 関心のある経済人？ 音楽好きな経済人？？ この経済人の「貧しさ」とは何？？ ⇒「音楽」が共通ボール。好きな音楽・嫌いな音楽＝よい音楽・嫌いな音楽？ 「1+1=2?」の発見 ☆公立大学でのキャンパスライフ、楽しんでいるか＝ラクしているか？ 「ラクして楽しむ」合理的な生き方がなぜダメなのか？ テーマ2: 貧しき経済人がたどる人類の道とは？ 内 容: ⇒果たして「経済人」は束縛(貧困)の罠から脱出できるのだろうか？ 経済人から「共創人」「モデルヘンクトシ」「共創マインド」を持つことが脱出の糸口。 テーマ3: インド映画『きっと、うまくいく』(前半 85 分)を観て、貧しき経済人を探る旅: 内 容: インド映画に登場する若い経済人の素顔を知り、関心を持つ＝「問い」を発見すること。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 2 (12/21) 花 4～6 講 2・3・4 インド: 自由から富を求める飛躍の旅 無関心となる暗闇の旅	テーマ4: インド映画『きっと、うまくいく』(前半)を観て、自由と富を求める、貧しき経済人を考える旅: 内 容: 映画に登場する人物: どのような自由を求めているのか？ ラクする自由には“落とし穴”がある？ <楽しむ自由にも“落とし穴”がある？> ・自分たちに関わる重要な問い(＝大学教育)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 大学(教育)とは点の取り方を教えるところ？ 問い2: 大学(教育)は、人生の競争に勝つためのものか？ 大学教育に対する見方において、どの自由を選ぶか？ 自由を得ると、人は富を求めるのか？ 経済的富: 「おカネがすべて」なのか？ 夢を与える仕事とどう関連するのか？ ―インド経済人を「鏡」として考える― 「人生は競争」なのか (欠乏ゆえに) どのような自由を求めているのか？ 束縛からの自由、そして、富への自由。 カネがあれば何でも(買うことが)できる？ 過去の時間と現在・未来の時間: 今の時間も？ いのちや愛も？ テーマ5: インド映画『きっと、うまくいく』(後半 85 分)を観て: 富を求める経済人を観察する 内 容: 金持ちになりたい？ ビジネス(経済的富の追求)は何のためなのか？ インドからの答えとは？ カネを稼ぐのが目的ではなく、稼いだカネを社会に還元すること(与える) テーマ6: インド映画『きっと、うまくいく』を振りかえって: 富を求める経済人を吟味。 内 容: インド映画『きっと、うまくいく』を観て、自分たちに関わる問い(成功者とは)を立て、共創(コクリ)する。問い1: 人生の成功者は登場人物の中にいる？ 問い2: 成功者とは金持ちなのか <エクセレント(優秀)な人生？> <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 3 (12/22) 自転車 7～9 講 2・3・4 インドからブータンへ: 富から自己満足を求める快楽の旅 無関心となる暗闇の旅	テーマ7: インドからブータン: 幸福と自己満足を求める経済人を考える旅: “足るを知る”人間へ 内 容: ビデオ教材によって、幸福の国ブータンの経済人の素顔を知る 嵐・幸福の国ブータン、あるいはブータン幸福度調査を観て、共創する。 義務を守れば幸せになれるのか、「幸せ」は一時的なのか (便利になれば、幸せになれるのか) (参考)義務: タバコ禁止(義務)、伝統的民族服の着用の義務、森林保護の義務、建築デザインの規制(義務)など。 仏教的幸福の方程式＝財/欲望 ホント？ ブータンの幸福度＝日本人の幸福度(個人主義的)？ ブータンは、自分+他者、現世+来世 御手洗瑞子(みたらい・たまこ)、[2012]『ブータン、これでいいのだ』新潮社。 ・ブータンの幸福観を受け入れられるのか、 テーマ8: ブータン幸福度調査に関するビデオをもとにキャッチボール 内 容: ブータンの経済人の幸福観を知ること。 心豊かであれば幸せとなるかもしれないが……今は幸せですか？ 「心の豊かさ」を求めていますか？ テーマ9: ブータンの経済人の幸福: 理想と現実は同じなのか？ 内 容: ブータン幸福度調査の結果をもとに、共創する。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
DAY 4 (12/23) アダムとエバの誕生 10～12 講 2・3・4 ブータン:	テーマ10: ブータンの経済人から: 「幸せはどこに？」 満足の中に？ それとも愛の中に？ 内 容: 「満足」する意味を考え、幸せとなるか否かという判断基準を明確にする。 (参考)「満足」する＝精神的に満たされ、物質的に足りていること(仮説)。 テーマ11: 満足する生き方と「足るを知る」生き方: どちらの道を選ぶか 内 容: 満足する生き方の対極にある「足るを知る」生き方を明らかにする。 「足るを知る」生き方を実践すれば、愛欲から解放される？ 愛と愛欲の違い。 自分を犠牲にしても愛したい「何か」を持っていますか？ 自己愛の対極にある愛。 例えば、鶴のために自分の快適さ(欲望)を犠牲にしてもよいと考えるブータン人のように。 テーマ12: 「自己満足すれば、幸福になれるのか？」 自己満足すると、無関心となるのはなぜ？ <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>

D A Y 5 (12/24) 帰還 川はなぜリ ッチ？ 2・3・4 13～15 講 インド・ブー タンからの 帰国 「心の貧し さ」(束縛)と 自我からの 解放の旅	テーマ13: インド・ブータンからの帰還: 貧しき経済人が人生に求めてきたもの: 自由・富・満足する生き方: その行きつ くところとは、無関心と束縛。では、貧しき経済人は、何を求めて生きればよいのだろうか？ 「病者の祈り」 に みる祝福された貧しき経済人にそのヒントがあるのでは。 内 容: 経済人は何を求めて生きているのか？ 経済人は、ほんとうの自由、ほんとうの豊かさに出会えるのだろう か？ 科学的アプローチと宗教的アプローチを問う: 真理はどこにあるのか？ 真理は体験して知るものでは？ テーマ14: 「カイゼン」と「ジュガード」を実践する（経済人ではなく）共創人を目指して 内 容: 心貧しき者経済人にとってのよき知らせ。共創空間に秘められた宝を明らかにし、共有化する。 テーマ15: 貧しき経済人をめぐる共創の旅の総括: 内 容: 映画でみる急成長するインド・幸福の国ブータンから、どんなメッセージを得たのか？ 「共創」の視点から、その人間観、特に貧しき経済人の生き方(way of life, lifestyle)を問題とし、新たな判断 軸(共創マインド): 身についたと思いますか？ 自分の生き方にインパクトがあったのか？共創の旅からのプレゼント: 1 + 1 = 9 (の宝) ・「貧しき経済人をめぐる共創リポート」作成に当たっての確認。 <教科書・指定図書: 教員作成のレジュメ・資料による>
---	--

試験ではなく、「共創」リポート(「共創空間」を活用した授業の成果をまとめたもの) **提出期限: 2026年1月19日(予定)**

〔科目名〕 金融機関論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 山本 俊 Yamamoto Shun			〔オフィス・アワー〕 時間:第 1 回目の授業でお伝えします。 場所:528 研究室			〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 金融機関論では、間接金融の中心となる担い手である銀行等の預金取扱金融機関を対象とし、ミクロ経済学を分析ツールの基本として大きく3つのことを学修します。 第1部では、銀行を中心とした預金取り扱い金融機関が現在のような業態に至るまでの歴史的な経緯や経営環境の変化を辿ることで、銀行等に対する規制の意義や役割、成果の計測方法について学修します。 第2部では、複数の金融市場で行動する銀行等の合理的な行動をミクロ経済学(や情報の経済学)の視点から分析し、銀行貸出が政策や情報の非対称性などによって、どのような影響を受けるのかを学修します。 第3部では、銀行等のリスク管理に焦点を充て、リスク定量化の方法やリスク管理手法について学修します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 1. 他の科目との関連付け ファイナンス理論では、証券市場を中心とした直接金融に関する理論を学修しました。一方、金融機関論では、間接金融の中心となる担い手である銀行等の預金取扱金融機関に関する業態や理論、評価方法などを学修します。したがって、金融機関論では、ミクロ経済学の考え方が基本となりますので、その十分な理解が必要となります。その他にも、「金融政策の効果が金融市場や金融機関を通じて投資や消費に波及するメカニズム」など、マクロ経済学や金融経済学Ⅱでの学修内容も求められます。 2. 学んだことが何に結びつくのか？ 経済学を通じて銀行等の役割や行動を理解することは、私たちの暮らしをより充実させるためにも、企業目標を達成するための資金調達においても、不可欠であると考えられます。							
〔科目の到達目標〕 ・銀行等に対する規制の意義や役割、成果の計測方法について説明できること。 ・銀行貸出が政策や情報の非対称性などによって、どのような影響を受けるのかを説明できること。 ・銀行等によるリスク定量化の方法やリスク管理手法について説明できること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4 ○	DP1 ○	DP2	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 この科目を青森公立大学にて担当したことはないため、該当しません							
〔教科書〕 金融機関論では教科書を使用せず、配布する授業資料に基づいて授業を進めます。 なお、授業資料の作成では、主に、下記の参考書を参照しています。							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 参考書1:筒井義郎『プログレッシブ経済学シリーズ 金融』東洋経済、2001 年 参考書2:内田浩史『金融〔新版〕』有斐閣、2024 年							

参考書3:工藤和久『現代金融論入門 情報と信用』現代図書、2010 年 参考書4:福田慎一『金融論【新版】』有斐閣、2020 年 参考書5:村瀬英彰『シリーズ新エコノミクス 金融論 第2 版』日本評論社、2016 年 参考書6:茶野努、安田行宏編著『基礎から理解する ERM』中央経済社、2020 年	
【前提科目】 ミクロ経済学、マクロ経済学、金融経済学Ⅰ・Ⅱ ただし、上記3科目のいずれかの単位を修得していない学生も、本科目を履修できます。	
【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等) 以下の方法によって成績評価します。 ①授業内クイズ:30%(第9回目の授業内で実施予定です。理解を深められるよう授業内で解説します。) ②期末試験:70%(択一式と記述式の併用) ※評価の前提として、原則、全授業回数の3分の2以上の出席を必要とします。	
【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】 ①この授業においては、「何故なのか」という視点を強く意識し、考える過程をしっかりと辿るよう意識します。 ②前提科目の基本事項は授業内でも可能な限り補足説明するよう意識します。 ③学生が授業内容を聴き、考える時間と、学生が授業内容を整理する時間を区別するよう意識します。 ④第1回目の授業内ガイダンスにおいて、授業の進め方や評価方法などについて補足説明します。 ⑤学生には、他の受講生を意識した高い受講マナーを期待します。	
【実務経歴】特に、なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス、銀行業の経営努力と経営統合(第1部 #1) 内 容: シラバスの確認等のガイダンスをします。 2025 年 1 月、青森県に新銀行が誕生したことを踏まえ、背景にある「政府や日銀の政策」や「合併までの準備」について学び、金融機関論に対する関心を高めます。事前に、金融庁が 2018 年に公表した「地域金融の課題と競争のあり方」に目を通しておくと理解が深まります。 教科書・指定図書:配布資料及び上記の金融庁公表資料
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 銀行等の歴史、預金取扱金融機関の分類と機能(第1部 #2) 内 容: 銀行等の歴史を振り返ることで、金融経済学でも学んだ「銀行等の業態」が形成された経緯を学修します。その上で、銀行等の金融機関が役割を果たす上での特性を学修します。 参考書1の 10 章、11 章
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 業務分野規制と利益相反(第1部 #3) 内 容: 第 2 回目で学修した業務分野規制の根拠を利益相反という視点から考え、業務分野規制の変遷を掘り下げて学修します。特に、ONE WAY 規制に対する批判や、2021 年の銀行法の改正に注目します。 参考書1の 10 章
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 銀行の業務(第1部 #4) 内 容: 銀行の業務を法律にもとづいて確認し、銀行内部の組織の役割と関連付けて、貸出業務や預金業務について学修します。 参考書2の第 8 章
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 銀行の財務諸表(第1部 #5) 内 容: 現実の銀行の財務諸表を用いて、銀行の業務を包括的に確認します。 参考書3の第 3 章
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 銀行経営を評価するためのいくつかの指標(第1部 #6)

	内 容:第5回目で学修した「銀行の財務諸表」を用いて、銀行経営を評価するためのいくつかの指標を学修します。 参考書3の第3章
第7回	テーマ(何を学ぶか):銀行行動の理論(1)(第2部#1) 内 容:ここでは、ミクロ経済学の生産者理論や不完全競争市場の理論を銀行に応用します。銀行は貸出と同時に、預金収集、コール市場での資金貸借、オープン市場の証券売買をしていますので、こうした部分をどのように単純化し、銀行利潤を定式化するかを考えます。その上で、銀行貸出の需給を考え、信用割当と呼ばれる現象を考えてみましょう。 参考書1の第8章、参考書4の第5章
第8回	テーマ(何を学ぶか):銀行行動の理論(2)—不確実性を想定—(第2部#2) 内 容:第7回目で学修した内容に、不確実性が導入されれば、銀行行動がどのように変化するかを考えてみましょう。 参考書1の第8章、参考書4の第5章
第9回	テーマ(何を学ぶか):銀行貸出における逆選択(第2部#3) 内 容:ここでは、貸手と借り手の間にある情報の非対称性に注目し、リスクの高い投資案件を有する借手に対して貸出が行われてしまうことがあることを学修します。また、クイズも実施予定です。 参考書2の第4章、参考書4の第5章
第10回	テーマ(何を学ぶか):逆選択と均衡信用割当(第2部#4) 内 容:第9回で学んだ逆選択がある場合の銀行貸出の供給曲線について考えた上で、銀行貸出の需給が均衡した場合に、超過需要が発生し得るという「均衡信用割当論」を学修します。 参考書2の第4章、参考書4の第5章
第11回	テーマ(何を学ぶか):金融取引を阻害する要因の軽減策(第2部#5) 内 容:ここでは、逆選択などの金融取引の阻害要因を軽減するために、銀行などの金融仲介機関が採り得る方法を整理し、それが社会的にどんな役割を果たしているのかを学修します。 参考書2の第4章、参考書4の第5章、参考書5の第2章
第12回	テーマ(何を学ぶか):銀行が直面するリスクと定量化の方法(1)(第3部#1) 内 容:銀行等の金融機関が直面する大きく4つのリスクを取り上げ、それらの定量化の方法を学修します。特に、第12回目では、信用リスクと市場リスクを取り上げます。 参考書1の第8章、参考書6の第1章、第4章
第13回	テーマ(何を学ぶか):銀行が直面するリスクと定量化の方法(2)(第3部#2) 内 容:銀行等の金融機関が直面する大きく4つのリスクを取り上げ、それらの定量化の方法を学修します。特に、第13回目では、流動性リスクとオペレーショナル・リスクを取り上げます。 参考書1の第8章、参考書6の第1章、第4章
第14回	テーマ(何を学ぶか):銀行のリスク管理の方法(第3部#3) 内 容:ここでは、銀行等の金融機関がどのようにリスクを管理しているのかを考えてみましょう。 参考書6の第4章
第15回	テーマ(何を学ぶか):地域銀行の経営成果を計測するための経済理論(まとめ) 内 容:私たちにとって身近な地域銀行の経営成果を計測するための経済理論を確認し、実際に、地域銀行の経営成果を計測し、改善に向けた目標を示します。 参考書1の第9章
試験	期末試験(択一式と記述式の併用)を実施します。出題範囲などを授業内で連絡します。

〔科目名〕 国際金融論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 中條 誠一 Seiichi Nakajo		〔オフィス・アワー〕 時間： 場所：			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 国際金融の基礎理論を踏まえて、実際に国際金融の業務がどのように行われているかという基本的な実務と現代の世界経済が直面している現実の問題を理解するための授業である。したがって、講義は国際金融の理論、実務、現実問題の 3 部構成から成っているが、いずれも初学者でも理解できるような分かりやすいものとする。 特に、他の国際金融論の授業と異なるのは、最先端の国際金融の実務を取り上げ、平易にその仕組みを解説することによって、受講者が実際に活用できるような「現実に関与する国際金融論」となっている点である。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現代の世界経済は、グローバル金融資本主義などと呼ばれるように、物やサービスの取引に必要な額を上回る資金がうごめき、たびたび国際金融における混乱が危機を発生させている。その影響は、われわれの日常生活にも及んでおり、国際金融の重要性が高まっている。 そうした中では、グローバルな世界を舞台にした国際金融取引の原理や実態、それがもたらす混乱や危機を把握することが、国際人を目指す学生はもとより、国内ビジネスに従事する場合にも、一般常識として不可欠となっている。グローバル社会を生き抜くうえで必要不可欠な知識として、この講義を活用して欲しい。							
〔科目の到達目標〕 (1) 国際金融の基礎理論全般を理解すること (2) 理論と現実の相違を明確に理解することによって、実際のビジネスにおいて、国際金融の理論をどのように活用すれば収益を得られるかを理解すること (3) 現実に発生している国際金融問題について、理論を踏まえた理解ができること 具体的には、国際金融の理論、実務、現実問題のそれぞれに関する新聞や雑誌などの記事をスムーズに理解できるようにすること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○		○	○		○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 過去の授業評価で、講義が聞き取りにくかったとの声が聞かれた。そこで、毎年受講生に私語を慎むように注意を促すとともに、大きく明瞭な発声を心掛けた。その結果、もともと平易な講義内容のものが聞き取りやすくなり、分かりやすいとの評価を得たので、今年度も継続したい。							
〔教科書〕 中條誠一『新版・現代の国際金融を学ぶ』勁草書房							

〔指定図書〕	
〔参考書〕 藤田・上川『現代の国際金融』有斐閣	
〔前提科目〕	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 基本的には、期末テスト（100 点満点）によって評価する。 ただし、授業は双方向方式を取り入れて行うため、適切な質問や回答に対しては加点する。 さらに、授業参加および貢献点、レポートの点数を加点する。 加点部分の配点は、授業の開始時に提示する。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 ともすれば、国際金融論は理論と実務や現実が乖離しており、分かり難いとか、実際に役立たないという声を多く聞く。その溝を埋め、実際に日常生活で使うことができ、役立つ国際金融論の講義にしたい。 そのために、たえず理論を実務や現実問題と関連付けながら講義をするので、受講生は新聞、雑誌、TVなどを通じて、国際金融に関わる動きをウオッチし、問題意識を持つように心がけてもらいたい。	
〔実務経歴〕 総合商社での国際的な金融業務の経験を活かし、為替レート予想、国際資金調達や運用の仕方などを授業に取り入れたい。	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): お金(通貨)とは何か 内 容: 今、新しい通貨として、デジタル通貨が注目されている。そこで、国際金融にも大きな影響を与えられるデジタル通貨を最初に取り上げ、そもそも「お金(通貨)」とは何かを考えてみる。 教科書・関連資料を配布
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): 「未来の通貨」(デジタル通貨)とは？ 内 容: 未来の新しい通貨はどのようなものか。私たちの生活はどのように変わるのかを考えてみる。 教科書・配布資料
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 国際収支の仕組み 内 容: 国際的にどんな取引がなされているのかを国際収支表で見てみる。特に、国際金融取引の内容を理解できるようにしたい。 教科書・指定の教科書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 為替レートの国際収支調整機能 内 容: 為替レートによって、どうすれば国際収支は調整できるのか、現実にはどうかを見てみる。 教科書・指定の教科書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 国民経済と国際収支 内 容: 経済全体から国際収支を見る I-S バランス論と、その現実的な意義を考える。 教科書・指定の教科書

第 6 回	テーマ(何を学ぶか):購買力平価説 内 容:伝統的な為替レート決定理論と、その現実的な意義を見てみる。 教科書・指定の教科書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):アセット・アプローチ理論 内 容:新しい為替レート決定理論と、それに基づいてどのように為替レートを予測すればよいかを考える。 教科書・指定の教科書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):金利平価説と金利裁定取引 内 容:金利平価の成立メカニズムと、それを応用して利益を得るための方法を理解する 教科書・指定の教科書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):国際金融市場とその機能 内 容:国際金融市場の概要とその機能について考える。 教科書・指定の教科書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):先物取引 内 容:デリバティブ取引の一つである先物取引の仕組みを知り、それをどのように使えばよいかを考える。 教科書・指定の教科書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):通貨オプション 内 容:デリバティブ取引の一つである通貨オプションの仕組みと、その使用の仕方を考える。 教科書・指定の教科書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):通貨スワップ 内 容:デリバティブ取引の一つである通貨スワップの仕組みと、その使用によってどのようなことができるかを見てみる。 教科書・指定の教科書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):基軸通貨・ドルとアメリカの「法外な特権」 内 容:世界の基軸通貨であるドルを発行することで、アメリカはいかに大きな利益を得ているかを見てみる。それによる問題も抱えており、それが今の「トランプ関税」に大いに関連していることを理解する。 教科書・配布資料
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):通貨統合とユーロ危機 内 容:通貨を統合するということはどういうことか、それに伴うユーロ危機の原因や対応を見てみる。 教科書・指定の教科書、配布資料
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):黄昏の通貨・円は、再び輝きを取り戻せるか。 内 容:円安の効果を正しく評価し、そのメリットを日本経済の再生につなげる方法を考える。 教科書・配布資料
試 験	

〔科目名〕 公共政策論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 選択科目	
〔担当者〕 木立 力		〔オフィス・アワー〕 時間:開講時に案内 場所:研究室				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 2 年次のマクロ経済学では、IS・LM モデル、総需要・総供給モデル、ソローモデルなどを学んだ。各モデルでは、価格調整の有無、賃金調整の有無、資本ストックの変化の有無などの仮定が異なっているので、異なった均衡が生じ、望まれる経済政策も異なってくる。 従来は仮定についての認識の違いが経済政策への意見対立を生んでいた。しかし近年はどの仮定がどのようなタイムスパンで成立するかについて研究が進んできた結果、短期、中期、長期にはどの仮定が成立しどのモデルが適しどの経済政策が適しているかが、意見の相違ではなくある程度実証結果に基づいて絞り込めるようになってきた。 この講義では第 1 に、各モデルの仮定、均衡、望まれる経済政策について整理する。 第 2 に、さまざまな仮定がどのタイムスパンで成立するかの研究成果を紹介する。第 3 に、現実の経済政策が、どのタイムスパンに属し、どのモデルが適し、どの政策方向が適しているかについて考察する。第 4 に、国民や政治家が短期モデルに基づいた経済政策を好み長期的に望ましくない結果をもたらす原因を成長モデルの移行過程から考察する。 モデル理解の例題として公務試験問題などを取り上げ解法の解説も行う。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 3 年次秋学期の科目なので、経済学科でのこれまでの学びを整理する。さらには、卒業後も有権者として適切な経済政策を選択できる一助となる科目であってほしいと願っている。 忙しい時期に経済モデルをわざわざ学ぶ切実な動機としては大学院受験や公務員受験などがあるだろう。これらの試験問題は経済学の理解にも役立つので、問題が解けることと社会人としての素養も身に付けることとの両立をはかる。							
〔科目の到達目標〕 現実のマクロ経済政策について、どの経済モデルがより適切かを選択でき、どの政策が望ましいかを考える力をつけてほしい。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 各種試験に役立つとの評価や興味深いとの評価があった。一層の両立をはかる。							

〔教科書〕 全体についての教科書はない。ソローモデルについては、『マクロ経済学Ⅱ』の該当箇所	
〔指定図書〕 なし	
〔参考書〕 渡辺努(2024)『物価を考える』、ブランシャール『マクロ経済学 上、下』、公務員試験のマクロ経済学過去問	
〔前提科目〕 マクロ経済学は履修済であること。経済変動論は履修済であることが望ましい。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ① 練習問題やエクセルでの数値計算の課題を1, 2度課す。②毎回の出席を重視する。③主に期末試験の結果で評価する。 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 就職活動の忙しい時間にも毎回出席して良かったと思える実利と知的喜びの両方を得てほしい。	
〔実務経歴〕 なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ISLM モデルの復習1 内 容: ISLM モデルにおける仮定は何か、需要が供給を決める理由は何か 教科書・作成資料
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): ISLM モデルの復習2 内 容: ISLM モデルの均衡と潜在 GDP の関係 教科書・作成資料
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 総需要曲線 内 容: 総需要曲線の導出。総需要曲線が想定する物価が動く中期 教科書・作成資料、公務員試験過去問
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 総供給曲線1 内 容: 労働市場の仮定と物価が動く中期 教科書・作成資料
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 総供給曲線2 内 容: 総供給曲線とフィリップス曲線の関係 教科書・作成資料

第 6 回	テーマ(何を学ぶか):新古典派の生産関数 内 容:規模の経済と成長論での生産関数 教科書・作成資料
第 7 回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデル1 内 容:ソローモデルの仮定。AD,AS モデルとの対象期間の違い 教科書・「マンキュー、マクロ経済学Ⅱ」、作成資料
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデル2 内 容:ソローモデルにおける黄金律 教科書・「マンキュー、マクロ経済学Ⅱ」、作成資料、公務員試験過去問
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデル3 内 容:ソローモデルにおける移行過程と数値シミュレーション 教科書・「マンキュー、マクロ経済学Ⅱ」、作成資料
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデル4 内 容:ソローモデルにおける技術進歩 教科書・「マンキュー、マクロ経済学Ⅱ」、作成資料、
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):2 期間消費モデル1 内 容:フィッシャーの 2 期間消費モデルと貯蓄の利子弾力性 教科書・作成資料
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):2 期間消費モデル2 内 容:2 期間消費モデルとケインズの消費関数の関係 教科書・「マンキュー、マクロ経済学Ⅱ」、作成資料、
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):ソローモデルの復習 内 容:ソローモデルの復習 教科書・作成問題
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):所得余暇選好1 内 容:所得余暇選好と計算問題 教科書・作成資料、公務員試験過去問
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):所得余暇選好2 内 容:所得余暇選好とケインズの労働市場の想定 教科書・作成資料
試 験	

〔科目名〕 経済特殊講義Ⅳ(経済学説史)				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 中井大介		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の前後で受け付けます。 場所:				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 アダム・スミスにはじまり、マーシャルやケインズを経て現代へと至る、経済学の歴史を概観します。各回1～2名の重要な経済学者をピックアップし、彼らの学説とその現代的意義について検討します。とくに、ミクロ経済学とマクロ経済学が形成された歴史的プロセス、あるいは非主流の経済学の特徴などに注目します。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経済学が発展してきた歴史的経緯を学ぶことで、経済学の全体像を把握することが可能になります。また、ミクロ経済学とマクロ経済学のそれぞれの特徴や両者の関係などについても、より正確に理解することが可能になります。							
〔科目の到達目標〕 経済学の誕生から現代へと至る経済学の歴史に関する基本的知識を、受講者各自が習得することです。また、数理的・理論的アプローチとは異なる、過去の経済学の思想的・哲学的アプローチから、現代の経済問題解決への糸口を探ることです。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4 ○	DP1	DP2	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 これまでの方針を踏襲しつつ、課題や講義中のディスカッション等を通じて、学生相互の意見交換する機会をいっそう増やします。							
〔教科書〕 毎回プリントを配布するため、教科書は使用しません。							
〔指定図書〕 特になし。							
〔参考書〕 授業中に読書案内として適宜紹介します。							
〔前提科目〕 特になし。							
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 配布のプリントとスライドを用いて授業を進めますが、講義内容をよりよく理解するためには適宜メモなどをとることが有用であると思います。							
〔実務経歴〕 特に該当なし。							

授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): ガイダンス 内 容: 講義計画や目的について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): スミスと経済学の誕生 内 容: 経済学誕生の歴史的背景やスミスの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): リカードとマルサス 内 容: リカード・マルサスの学説や穀物法論争・人口問題について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): ミルと古典派経済学の完成 内 容: 古典派の特徴や定常状態について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): マーシャルとミクロ経済学 内 容: ミクロ理論誕生の歴史的背景について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): ピグーと厚生経済学 内 容: 厚生経済学のルーツについて 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): ケインズとマクロ経済学 内 容: マクロ経済学誕生の歴史的背景やケインズの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 前半のまとめ 内 容: 経済学の成立からミクロ・マクロ経済学の誕生まで 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): マルクスと社会主義・共産主義 内 容: 社会主義誕生の歴史的背景やマルクスの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): ヴェブレンと大衆消費社会 内 容: 大衆消費社会の形成と顕示的消費のアイデアなどについて 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント

第 11 回	テーマ(何を学ぶか): シュンペーターとイノベーション 内 容: 創造的破壊などの概念やシュンペーターの経済社会観について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): サミュエルソンと新古典派総合 内 容: ミクロ経済学とマクロ経済学の関係について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): フリードマンとマネタリズム 内 容: リバタリアニズムやマネタリズムの学説について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): ロールズと正義 内 容: 無知のヴェールや格差・分配問題について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 後半のまとめ 内 容: 非主流の経済学および現代経済学について 教科書・指定図書: スライドおよび配布プリント
試 験	講義中課題とレポート課題から総合的に評価します。

〔科目名〕 自治体政策法務論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 選択科目	
〔担当者〕 昆 忠彦 Kon Tadahiko		〔オフィス・アワー〕 時間:授業の前後など随時 場所:教室、非常勤控室				〔授業の方法〕 講義及び演習	
〔科目の概要〕 地方分権一括法が 2000 年より施行され、それまで続いてきたわが国の中央集権的な地方自治の制度が改革され、国の自治体に対する統制が縮減されることになった。このことにより、自治体の自己決定権は拡充され、従来制約を受けてきた個性あるまちづくりや独自の政策展開の可能性が広がった。しかし、このことは、これからの政策形成に関しては、それぞれの自治体の力量が問われることに他ならない。自治体は自ら政策を策定し、まちづくりを行えるようになった一方、このような自己責任を全うするためには、自治体は政策形成と自治体の運営能力を高めていくことが求められる。 具体的には、自治体職員の政策形成、財政運営、そして自治体法務の能力を高め、実質的な住民自治を達成するため、住民を含めた自治体全体の能力の向上を図ることである。 当科目では、自治体政策法務の基本的な考え方を学びつつ、地域コミュニティや NPO などの非営利団体、民間企業等とのパートナーシップの内容や動向を紹介し、学際的観点から地域社会における政策法務のあり方を明らかにし、その活用の仕方を考える。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 政策法務は、多種多様な領域と結びついている。なぜならば、市民自治の下で、地域に生きる人々の豊かな生活の営みと新たな地域社会の創造に関係しているからである。地域の一人ひとりが主役であり、潜在的な可能性を引き出し、日々成長を続け、新しい自己と地域社会を創造していくために、何が必要となるか、究明していく。 したがって、当科目では、地域社会において重要な役割を果たしている政策法務について、主として政策、財務、法務、市民自治等の観点から把握し理解を深める。そのために、自治体政策法務に隣接する諸科学の成果をも援用しつつ、学際的にアプローチする予定である。当科目を学ぶことによって、皆さんが地域社会に生きる一市民として、自治体政策法務の役割と意義を再検討することが期待される。							
〔科目の到達目標〕 【最終目標】 政策法務の様々な動向を踏まえて、さらに改革を行っていく上で必要と思われる内容を関連する社会科学の諸観点から理解する。 【中間目標】 政策法務に関連する地域政策の具体的ケースを事例に沿って理解し、その意義と役割について理解を深める。特に、近年の社会における少子高齢化と緊縮した財政運営の中にあつて、さまざまな政策動向が見られる。その実態を知ることによって、将来の改革展望についての認識を新たにできる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
					○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 スライドや各種資料を活用して、できるだけ分かり易い講義に努めます。							

〔教科書〕 オリジナルの資料を使用します。なお、授業中に指定図書、参考書等の読書を課する場合があります。	
〔指定図書〕 磯崎初仁『自治体政策法務講義』(改訂版) ぎょうせい	
〔参考書〕 加藤良重『自治体は誰のもの？－政策・財務・法務から考える－』公人の友社 磯崎初仁『立法分権のすすめ－地域の実情に即した課題解決へ－』ぎょうせい 鈴木康夫(監修)『ケーススタディ図解自治体政策法務』ぎょうせい 森幸二『自治体法務の基礎と実践』ぎょうせい 自治体法務検定委員会『自治体法務検定問題集 2024 年度版』第一法規 ※このほかにも随時、授業中に紹介します。	
〔前提科目〕 特にありません。(「行政経営論」、「自治体経営論」、「地域経営論」と関連します。)	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 簡易なレポートの提出、もしくは小テストを行う予定です。 評価は、試験、レポート、小テスト、授業中の参加態度、意見等を総合的に見ます。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 少子高齢化、情報化、国際化の進展という社会変化のなか、どのような地域社会を構想していけばよいか、自治体の政策法務という観点から検討いたします。政策法務の必要性、動向を深めることにより、実際の自治体のうごき、地域づくりにも言及いたします。受講を契機に自治体の現場や関連書籍に触れ、知見を広めてください。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか)：オリエンテーション(自治体政策法務論の射程) 内 容：科目の概要、自治体政策法務のあゆみ、自治を支える政策法務 教科書・指定図書 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 2 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体政策法務の基礎 内 容：自治体の制度保証 教科書・指定図書：講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 3 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体政策法務の基礎 内 容：自治体政策の意義と展開 教科書・指定図書：講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 4 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体政策法務の基礎 内 容：政策実現手法としての財務(1) 教科書・指定図書：講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第 5 回	テーマ(何を学ぶか)：自治体政策法務の基礎 内 容：政策実現手法としての財務(2) 教科書・指定図書：講義に沿ったレジュメを配布いたします。

第6回	テーマ(何を学ぶか):自治体政策法務の基礎 内 容: 政策実現手法としての政策法務 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容:政策法務の理論(1) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容:政策法務の理論(2) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第9回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: 政策法務の実務(1) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第10回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: 政策法務の実務(2) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第11回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: 地域社会の課題と政策(1) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第12回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: 地域社会の課題と政策(2) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第13回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容:地域社会の課題と政策(3) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第14回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: 地域社会の課題と政策(4) 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
第15回	テーマ(何を学ぶか): 自治体政策法務の現状と課題 内 容: まとめ 教科書・指定図書: 講義に沿ったレジュメを配布いたします。
試 験	期末レポートを実施します。

〔科目名〕 経営革新論Ⅱ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 生田泰亮 Ikuta Yasuaki		〔オフィス・アワー〕 時間:後ほど指示します。 場所:1305 研究室（大学院棟）				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 これまで学んできた経営経済学の知識、理論、特に春学期の経営革新論Ⅰを基礎としながら、「事業を立ち上げ、継続させ、成果を得る」までのプロセスについて、以下の2点を踏まえながら、ケーススタディを中心に講義を行う。 （１）事業創造の基礎理論 「事業を立ち上げる」と言っても、容易なことではない。企業内での新規事業であれ、0からの起業であれ、事業を立ち上げるというフェーズにおいては、①事業領域の設定、②新技術から製品化・アイデアのサービス化、③資金調達といった要点を同時に達成していかなければならない。具体的には、企業内での事業発掘、社内起業、コーポレート・ベンチャーキャピタル、クラウドファンディングなどを学ぶ。 （２）企業における事業創造 事業が軌道に乗り、製品やサービスの市場投入のフェーズに移行していくには、製品化に向けたプロダクト・イノベーションと生産性向上のためのプロセス・イノベーションの視点が重要となってくる。加えて「イノベーションのジレンマ」「キャズム」が示すように、超えなければならない「市場における壁や障害」がある。よって、事業をイノベーションとマーケティングの視点から考える。 基本的には、以下のような流れで講義を進行する。 ① 事前に予習課題に取り組む（教科書の予習範囲、事前の配布資料の熟読など）。 ② 講義内での教員からの説明、受講者とのディスカッションを通じて学習内容についての理解を深める。 ③ 各回の講義内容をもとに、新たな課題が出され、自身で調査、分析し、課題レポートとして提出する。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本講義は、経営経済学における様々な議論、概念、理論を基本としつつ「事業」にフォーカスして講義を進める。事業の概念を軸として、これまで学んできたことを再確認しながら、問い直すことで、これまでの学びをより深めることを期待したい。							
〔科目の到達目標〕 ・ビジネスを企画、構想するための基礎的な知識を身につける。 ・イノベーションとマーケティングの視点から事業を分析することができる。 ・これまでの様々な会社の事業、製品、サービスがどのように生み出され、認知され、普及したのか、その要点を分析し、まとめることができる。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2	DP3	

〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 学生の理解度を常に考慮しながら講義を進めていくことを心がけます。質疑等は遠慮なくどうぞ。	
〔教科書〕 小林敏男 『事業創成 イノベーション戦略の彼岸』 有斐閣、2014 年。（春学期「経営革新論Ⅰ」教科書を使用） 他、講義資料を配布する予定。	
〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕 「経営革新論Ⅰ」を受講し、単位取得していること（必須条件）。	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 講義時のディスカッション（予習、事前の課題などへの取り組みを含めて）・・・20% 課題レポート（複数回実施する）・・・80%	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 3 年秋の開講科目です。これまでの学習のまとめと応用という位置付けで講義を考えています。講義は事前の予習を前提とし、ディスカッションを中心に行います。予習内容をもとに学んだ内容を再確認するために、あるいは、自身の理解、閃きやアイディアを「他者に対して発言する」ことで、思考力や表現力を鍛えて欲しいと思っています。積極的な姿勢、旺盛な学習意欲を期待します。ケーススタディにおいては、最新の事例を取り上げることが多く（この点については、学生からの評価が高い）。そのため、シラバスの内容を前後して講義を行う場合があります、その点は留意していただきたい。	
〔実務経歴〕 該当なし	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ（何を学ぶか）： イントロダクション 内 容： 講義の進め方、概要について説明（※シラバス持参のこと）。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（1） 内 容： 事業創造とは何か？ 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（2） 内 容： 新技術、新規事業をいかにして生むか？ 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ（何を学ぶか）： 企業における事業創造（3） 内 容： 新規事業への突破口 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ（何を学ぶか）： 事業創造の基礎理論（4） 内 容： 新製品をいかに普及させるか？ 教科書・指定図書

第6回	テーマ（何を学ぶか）：事業創造の基礎理論（5） 内 容：事業と戦略的提携、3C から4C へ 教科書・指定図書
第7回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（1） 内 容：ケーススタディ① フランチャイズ・ビジネス スタートアップとビジネスモデル 教科書・指定図書
第8回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（2） 内 容： ケーススタディ② フランチャイズ・ビジネス ビジネスモデルと事業成長 教科書・指定図書
第9回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（3） 内 容：ケーススタディ③ フランチャイズ・ビジネス 世界ブランドへの成長 教科書・指定図書
第10回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（4） 内 容：ケーススタディ④ 最先端技術の動向と産業構造の転換 教科書・指定図書
第11回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（5） 内 容：ケーススタディ⑤ 最先端技術の動向と産業構造の転換 教科書・指定図書
第12回	テーマ（何を学ぶか）：企業における事業創造（6） 内 容：ケーススタディ⑥ 最先端技術の動向と産業構造の転換 教科書・指定図書
第13回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（1） 内 容：ケーススタディ⑦ 地方から全国、世界へ進出 教科書・指定図書
第14回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（2） 内 容：ケーススタディ⑧ 地方から全国、世界へ 教科書・指定図書
第15回	テーマ（何を学ぶか）：事例研究（ケース・スタディ）（3） 内 容：講義全体のまとめ 教科書・指定図書
試 験	※試験は実施しない。ただし、この期間に課題レポートの提出を課す予定。

〔科目名〕 地域と産業政策				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 安田公治		〔オフィス・アワー〕 時間:講義内で指定 場所:1204				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 本科目では地域における産業政策に対して、青森県と他地域の産業構造を比較したうえで、どのような政策が望ましいかについて学びます。講義の前半では特に地域とは何かを改めて理解し、地域における雇用・通勤圏、商圏がどのように分布しているか、都市の集積が起こることによるメリットとデメリットなどについて学びます。また独占企業の行動などについてもミクロ経済学の知識にも触れながら説明を行い、独占や寡占を考えるうえで企業が市場に与える影響力をどのように測るかについても説明します。後半では産業連関表の見方を知り、それをもとに地域の基盤産業が何であるかの見分け方も学びます。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 地域における雇用・通勤圏、商圏などの実際に経済活動が行われる範囲は必ずしも、都道府県、市町村などの自治体の行政区画と一致しません。経済活動が行われる圏域と行政区画の違いを無視して産業政策がなされると、実態と合っていない誤った政策となってしまう可能性があります。地域の産業政策を考えるうえでは、このような地域や都市の構造を把握することが重要となります。本科目では地域や都市の構造の違いを知り、適切な産業政策は何かを学びます。また地域の発展にはお金を稼げる産業である基盤産業の育成が大事になりますが、何が基盤産業となるかの判断基準の1つとして産業連関表を用います。特に後半では産業連関表から基盤産業を判断できるように講義を行います。							
〔科目の到達目標〕 中間目標:地域や都市の空間的な構造を理解する。 最終目標:異なる地域の構造に対して、適切な産業や政策を判断できるようにする。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 声の聞き取りやすさを考え、マイクを使用する。							
〔教科書〕 指定なし							
〔指定図書〕 指定なし							
〔参考書〕 講義内で必要に応じて紹介							

〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 小テスト2回(配点は1回ごとに15%、計30%) 期末試験(配点70%) ・出席状況 講義のうち5回欠席したものは、レポート・試験の点数にかかわらずF評価とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 地域経済や地域の産業を理解するうえでは1地域のみに目を向けていては十分な理解を得られません。講義では青森県や青森市の事例も扱いますが、東北だけではなく全国の様々な地域や都市の構造に目を向けて、地域や産業間のつながりを理解するように心がけてください。	
〔実務経歴〕 なし	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 地域とは何か 内 容: 地域区分、都市圏・商圏 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 都市化の概念とプロセス 内 容: 都市の形成、人口変動 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 都市集積の経済 内 容: 都市集積のメリット、デメリット 教科書・指定図書
第4回	テーマ(何を学ぶか): 都市内部の土地利用 内 容: 都市内部の企業、オフィス、住宅の立地がどのように決まるか。付け値地代理論。 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 都市計画 内 容: 少子高齢化、都市計画マスタープラン、コンパクトシティ、移住促進政策 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 私的独占(1) 内 容: 自然独占、私的独占、市場支配力 教科書・指定図書

第 7 回	テーマ(何を学ぶか):私的独占(2) 内 容:代替財、市場画定 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか):完全競争市場、寡占・独占市場、講義前半に小テスト(第 1 回)を行う。 内 容:余剰分析、寡占・独占企業の行動
第 9 回	テーマ(何を学ぶか):規制緩和と交通政策 内 容:規制緩和・民営化、公共交通 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか):農業と ICT 化 内 容: 地域の農業政策、既存産業への ICT の活用 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか):垂直的統合と 6 次産業化 内 容:垂直的統合、農業の 6 次産業化、マーケティング 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか):21 世紀以降の産業政策、講義前半に小テスト(第 2 回)を行う。 内 容:産業クラスター政策、官民連携 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の成り立ち 内 容:中間財・最終財、地域経済の循環と漏れ 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか):まちの経済の見方 内 容:基盤産業の見極め、特化係数、産業連関表の作成 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか):まちの構造改革 内 容:実際の産業連関表を見て地域の問題を理解する。 教科書・指定図書
試 験	筆記試験(配点 70%)

〔科目名〕 環境ビジネス論				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 平井太郎		〔オフィス・アワー〕 オフィス・アワーは設けませんので、授業中に質問していただくか、メールでお問い合わせください。				〔授業の方法〕 講義	
〔科目の概要〕 青森県内のさまざまな事例をもとに、地方・農村における地域づくりに関する基本的な考え方を学ぶ。特に基本にすえるのは、アクションリサーチという手法だ。実際にアクションリサーチを青森のさまざまな現場の人びとと進めた軌跡を学生と共有することで、学生自身も現場で地域づくりの担い手として活躍するためのポイントを体得してほしい。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 現在、地域社会では、現場の話し合いを通じた課題解決が求められている。この授業が核にすえるアクションリサーチこそ、そのように求められている話し合いをうまく進める手法の1つに他ならない。							
〔科目の到達目標（最終目標・中間目標）〕 地域の課題解決にむけた話し合いをうまく進めるために、「課題よりも目標」「尊重の連鎖」「周辺的な存在の連鎖的な尊重」「根をもつことと翼をもつこと」「4Dサイクル」といった基本的な考え方を学んだうえで、自分自身で実践できるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー（DP）との関係〕							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3	
	○	○	○	○	○		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕							
〔教科書〕 平井太郎『地域でアクションリサーチ』（農文協、2022 年刊）							
〔指定図書〕 なし							
〔参考書〕 なし							
〔前提科目〕 なし							
〔学修の課題、評価の方法〕（テスト、レポート等） 毎回、講義に関する学修成果と質問を内容とするリアクション・ペーパーを提出する。リアクション・ペーパーに記載された学修成果と質問から理解度と達成度を評価する。							
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生のみなさんの素朴な疑問を大切にする。							

〔実務経歴〕	
なし	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ(何を学ぶか): 今、なぜアクションリサーチが求められているのか 内 容: 現在、地域の課題解決をめぐる話し合いが求められている。その背景には現代社会特有の閉塞感がある。それを解きほぐす1つの手がかりとしてアクションリサーチがある。 教科書・指定図書
第 2 回	テーマ(何を学ぶか): なぜアクションリサーチを通じて現場の不全感は解きほぐせるのか 内 容: アクションリサーチのポイントの1つは、グループで課題解決に取り組むと、個々人でやるよりもうまくいきやすいということだ。もう1つのポイントは、そうしたグループの力を引き出すための工夫だ。 教科書・指定図書
第 3 回	テーマ(何を学ぶか): 私たちにとってアクションリサーチは未知の方法なのか 内 容: アクションリサーチは戦時下の米国で生まれた。だが、日本にはほぼ同時代、戦後直後に持ちこまれていた。それから現在まで、主に農村部の女性たちによってアクションリサーチは育まれてきた。 教科書・指定図書
第 4 回	テーマ(何を学ぶか): 3つの空洞化を乗り越えるには 内 容: 現在の地方はヒト・トチ・ムラという3つの空洞化に襲われている。同時に、アクションリサーチが注目するのは、3つの空洞化の先にある、誇りの空洞化だ。 教科書・指定図書
第 5 回	テーマ(何を学ぶか): 地域おこし協力隊からアクションリサーチが始まる 内 容: この 10 年、地域おこし協力隊という仕組みが、地方に大きな力を与えてきた。特にアクションリサーチと結びつくと、地方では無理だという思い込みの打破につながる。 教科書・指定図書
第 6 回	テーマ(何を学ぶか): 農業栄えて農村減ぶ、をどう乗り越えるか 内 容: 農業については規模拡大や高付加価値化が必要だと言われてきた。しかし、その結果、足許の農村の人口は急減し、農村らしい祭や景観も失われている。では、どうしたらいいのだろうか。 教科書・指定図書
第 7 回	テーマ(何を学ぶか): 総合的な計画をどう作ったらよいのか 内 容: 現在、地方自治体は国からさまざまな計画を立てるよう求められている。だが、意味のある計画を立てるのは意外と難しい。そこで頼りになるのが、田園回帰1%戦略という手法だ。 教科書・指定図書
第 8 回	テーマ(何を学ぶか): 目標をうまく共有するには 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの第一歩は目標をうまく共有することだ。課題からでなく目標を見つけることが、現場に力を与える。特に大事なものは、まとめるのではなく、組み合わせるという発想だ。 教科書・指定図書
第 9 回	テーマ(何を学ぶか): 4D サイクルとは何か 内 容: 地域づくりとアクションリサーチの進み方の1つのモデルとして、4D サイクルと呼ばれるものがある。Discover-Dream-Design-Destine の4つを循環させる方法だ。

	教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 尊重は連鎖する 内 容: 地域づくりとアクションリサーチを一步一步進めるには、現場で周辺の存在とされている人たちを、現場の人たちから自発的に尊重する雰囲気を生むことだ。どうしたらそうした雰囲気が生まれるのか。 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 根をもつことと翼をもつこと 内 容: 地域づくりとアクションリサーチが着実に成果を生むには、まず、自分たちの根を確かめてから、自ずと翼が生えてくるようなプロセスを踏むことが大切だ。 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): かけた時間は費用ではなく資本になる 内 容: 地域づくりやアクションリサーチには時間がかかる。だがその時間は無駄ではない。不確実な未来を乗り越えるための資本になるからだ。 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 現代日本の農村におけるアクションリサーチの骨格 内 容: これまでの議論をふりかえりながら、今、農村で求められるアクションリサーチには、地域経済循環という1つの方向性があることを確認する。 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 安心感のある場と「コミュニティ」 内 容: コミュニティについてはさまざまな見方がある。だが、その核心には、アクションリサーチで大事にしている安心感のある場づくりがある。 教科書・指定図書
第 15 回	テーマ(何を学ぶか): コミュニティストディからアクションリサーチへ 内 容: アクションリサーチはまだそれほど知られていない手法であり学問だ。だが、その出発点は、誰しもが関心を寄せ、希求するコミュニティに対する問いがある。 教科書・指定図書
試 験	なし

〔科目名〕 地域みらい特殊講義Ⅲ				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 展開科目	
〔担当者〕 竹 内 紀 人 Takeuchi Norito		〔オフィス・アワー〕 時間・場所： 非常勤講師につき、授業終了後など、随時対応します。			〔授業の方法〕 講義		
〔科目の概要〕 地域金融の仕組み全般に関する基礎知識を学びながら、これからの地域金融について考える科目です。 地元銀行出身で銀行系シンクタンク及びコンサルタント会社の役員を経験した講師が、具体的事例を交え解説します。地域のお金の流れをつかさどる「地域金融機関」の本質的な役割を、地域振興の視点から皆さんに考えてもらうための特殊講義です。 前中盤の 10 回で、従来の地域金融機関の姿を知識として習得します。終盤の 5 回は、これからの地域金融についてディスカッションを含め、学修します。 本科目は、金融理論の講座ではなく、単なる金融業務の解説講座でもありません。地域経済との関連性に焦点を当て、地域金融の重要性や課題を皆さんが自身の頭で考える科目です。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 本科目は地域経済、金融、財務など、他のさまざまな科目と関連します。 しかし、これまで何を学んできたか、現在、どれだけの専門知識を持っているかは問いません。 地域経済の活性化を目指していくためには、地域の中小企業や住民と最も近い距離で「お金」を扱っている地域金融機関の特性や課題を考えることが非常に重要です。 金融機関への就職を目指している学生はもとより、行政分野や地元民間企業などで「地域のため」に活躍したいと考えるすべての学生に、金融実務の経験者だからこそ伝えられることがあります。その点が本特殊講義の最大の特長です。 地元金融機関の統合が進むなど、かつてない環境変化が進んでいます。特に、金融分野にチャレンジしてみたい学生には、業界研究の一助にもなります。							
〔科目の到達目標〕 地域金融システム全般に関する基礎知識を身につけること。 地域経済活性化の視点を持ちながら、地域金融の役割について意見を述べられるようになること。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2 ○	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 基本的にこれまでの講義内容は高評価を得てきました。しかしながら、専門用語が多い分野なので、わかりやすさを旨とし、意欲的に予習復習に取り組めるよう、受講人数に合わせた柔軟な講義スタイルで進めていきます。自ら学ぶ要素を昨年度以上に強めていくつもりです。							
〔教科書〕 なし							
〔指定図書〕 なし							

〔参考書〕 『地銀の次世代ビジネスモデル』 編著 大和総研 日経BP(2020.5) ISBN 978-4-8222-8989-8 『捨てられる銀行 4 消えた銀行員 地域金融変革運動体』 橋本卓典 講談社現代新書(2020.9) ISBN 978-4-06-520145-9	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内プレゼンテーション 20%、ディスカッション 20% 期末試験(記述式)60%の割合で評価します。 授業への取り組み姿勢が特に優れていると認められる場合は加点対象とします。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 毎年、小規模なクラスとなるため、ひとりひとりの顔が見える中での講義並びにディスカッションとなります。世の中でお金が動く仕組みを少しでも知ってもらえれば、実務出身の非常勤講師としてうれしいことです。 いずれにせよ、毎回の講義の積み重ねで理解し、考えさせる組み立てをしているため、極力欠席をしないよう心がけて欲しいと思います。	
〔実務経歴〕 銀行業、シンクタンク	
授 業 スケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	テーマ (何を学ぶか) : ガイダンス、地域金融概説 内 容 : 金融の役割、地域内の資金循環 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 2 回	テーマ (何を学ぶか) : 近年における地域金融機関のビジネスを知る 1 内 容 : ディスクロージャー誌を読む 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 3 回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 2 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 1 (預金業務) 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 4 回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 3 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 2 (資産運用) 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 5 回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 4 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 3 (融資業務) 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 6 回	テーマ (何を学ぶか) : 地域金融機関のビジネスを知る 5 内 容 : 地方銀行の具体的な業務 4 (融資業務 2) 教科書・指定図書 : 教員作成資料
第 7 回	テーマ (何を学ぶか) : 金融機関の種類と役割 1 内 容 : さまざまな金融機関 (業態の違いと役割) 教科書・指定図書 : 教員作成資料

第8回	テーマ(何を学ぶか)： 金融機関の種類と役割 2 内 容： ゆうちょ銀行、政策金融機関 教科書・指定図書： 教員作成資料
第9回	テーマ (何を学ぶか)： 地域金融機関のビジネスモデル 1 内 容： 収益の仕組み～金融財務の基礎 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 10 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域金融機関のビジネスモデル 2 内 容： 地方銀行の決算はどのように変化しているのか 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 11 回	テーマ (何を学ぶか)： 金融システムの安定性 (自己資本比率・格付け) 内 容： 安心できる金融機関とは？ 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 12 回	テーマ (何を学ぶか)： 金融環境の変化 内 容： 地域経済の変化ほか 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 13 回	テーマ(何を学ぶか)： 地域の危機と地域金融 内 容： ドキュメンタリー視聴 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 14 回	テーマ(何を学ぶか)： 新常態の金融 1 内 容： 地銀再編はどこへ向かう 教科書・指定図書： 教員作成資料
第 15 回	テーマ(何を学ぶか)： 新常態の金融 2 内 容： これからの地域金融 教科書・指定図書： 教員作成資料
試 験	記述式の期末試験を実施します。